

七 元禄十二年一月ゝ十二月

(表紙および数丁欠損)

是ハ何年以前ハ家居有之候哉、高も分り申候哉、分り不申候哉、
又ハ往古ハ有之家居出来之年数不相知候哉、右之訳可書付事
一 田中中村銘々高訳可書付事

高何ほと 田中村家数何程 内何軒高持
何軒水吞

高何ほと 中村家数何程 内「」

右式ケ村只今ハ壱ケ村ニ立候「」 銘々ニ納所等も相勤候哉、
且又水帳ハ壱「」 候哉、別々ニ候哉、可書付事

一番田村出高六斗之義、何様之訳ニ而何拾年以前出高ニ成村高へ入
候哉、其訳委敷可書付事

右之通被吟味早々書付可被指越候

「」事

「」 図御用ニ付最前其方組下村々口上書帳「」 候内落着不
申義有之候□□別紙書「」 此趣を以吟味之上能々相聞申候様
ニ「」 付取候ハ、「」 被指越候、急用ニ候間左様ニ「」
相得「」

「」月□□日

「」友左衛門

杉山織右衛門

前谷村

二郎左衛門殿

追而別紙案紙重而村方書付と一同ニ相返被申候

右両通之書付之外ニ、前谷村吉介奉公之望候ハ、二三日中遣し可
申候、様子見候而可被召仕之由友左衛門様御手紙被遣候

右使之者鯖江直ニ参、前谷市兵衛方ニ泊り候而翌廿七日ニ罷帰
り候ニ付、右之書付共相改来ル廿九日・晦日両日之内指上可申由
御返事申上候

同廿七日

同廿八日

一 与下村々庄屋長百姓中呼寄申渡し候段々

一 大津御廻米来二月初ハ段々津出し可有候、并手本俵之訳委敷申

聞候

一 子年拝借金刁年壱ケ年分相改目録ニ判形取申候

一 刁ノ年拝借金卯ハ已迄三年賦目録ニ判形取申候

一 火之用心・盗人用心之証文ニ判形取申候

附り、はくち不仕様ニと口上ニ而段々かく庄屋長百姓中へ
申付候

一 清王村寺垣内之事、田中・中村両村之訳之事、番田村六斗出高
之事、吟味いたし書付取立候

一 御仕置書壱村へ壱通宛相渡し申候

一 田中々村与右衛門庄屋上ケ申度との願状ニ判形取申候

一 高五石・山五口 西方寺村吉兵衛持分

此かり銀貳百五拾匁余

内

九拾七匁七分 弓ノ年元利十楽太右衛門ゝかり

此質高五石・山壺口

百五拾九匁余

方々ゝかり

此質物山四口

右之通十楽村太右衛門方へ高山書入かり方有之、右之高山流申ニ付銀子かりかへ相済可申と、右之通銀子持参仕候得共、太右衛門請取不申候之由西方寺村十右衛門断申候

正月廿九日

一柿原十楽村五十郎・西方寺村市郎右衛門参候而、西方寺村吉兵衛跡三太夫借銀之義ニ付何角□申ニ付、五十郎・市郎右衛門対談之上、三太夫後々御百姓ニ相立申様ニ相談いたし、其上ニ而埒明不申事候ハ、重而此方へ可被申聞由兩人へ申渡し候

同晦日

「村寺垣内、番田村六斗之出高、田中々村」内高訳屋数之書付三通・同案紙共ニ、^(前)□谷村吉介為持遣し申候、則織右衛門様・□右衛門様へ手紙指上候

□年御拝借金之帳、弓年御拝借金帳御案紙、并田中々村与右衛門庄屋上ケ申願状共、右之吉介ニ為持藤介様へ遣し申候

一前谷村吉介奉公仕度由願申候処、友左衛門様水夫ニ可被召仕様ニ被仰越候付、書状を添候而鯖江へ遣し申ニ付、右書付共并後山ゝ

□□指上候帳面共ニ遣し申候

一青野木村人足壱人、福井へ内「かいニ遣し申候

二月朔日

一前谷村武右衛門、備後国福山へ舟寄御下之与頭中ゝ使ニ遣し申ニ付、路銀之内金貳分布目村彦兵衛方ゝ請取申候

同二日

同三日

一毛貫六対、布目彦兵衛方ゝ詔「うふけや久右衛門方ゝ請取候代「ゝ払可申由ニ候

同四日

同五日

□^二金壱分、右武右衛門路銀ニ後山茂右衛門ゝ請取候、□^(は)さみ四丁布目彦兵衛方ゝ請取候

同六日

□^二「二両武右衛門ニ渡□、備後へ参候路銀、右之内「一彦兵衛「一壱分茂右衛門出ス、壱分ハ二郎左衛門出ス、□^(け)ぬき

六対・はさみ四丁武右衛門へ渡、けぬき壹対・はさみ壹丁ツ、滝右衛門様・数右衛門様・政右衛門様・藤四郎様へ、けぬき壹対ツ、繁右衛門殿・清八殿へ、干鰯五枚殿様江、其外方々書状共、わげ物壹ツ彦兵衛殿様へ、同壹ツかわちや方殿様江、右之外金壹分舟寄善右衛門方へ請取申様ニと申渡し候、善右衛門方へも其通申遣し候

一御廻米詔度由村々へ申付、三国河内屋方へ相談ニ参候

同七日

一御廻米之義三国河内屋・金津新屋寄合候而、御米之相談いたし候
一前谷武右衛門備後へ出立いたし候

覚

一廻米壹俵四斗壹升五合入ニ可申付事

一米拵之義ハ、大津御蔵前ニ而御蔵手代衆兩人ニ而米壹俵毎二両度へさしを入、其米を折敷ニうつし御蔵奉行様方御立合御吟味被成、青米・死米・あらくたけ一さしの中ニ一粒有之而も御納不被成候由、御奉行様方被仰渡候旨渡辺団右衛門方へ申来候、依之例年之米拵ニ而ハ壹表も納り不申候間、右之趣得其意米拵随分入念可被申付候

一中札致無用、木札ニ何郡何村米主誰と書付俵之小口ニ附可申候、尤札落不申様ニ亭ニ而結付可申候事

一津出シ之義者当月廿日過る三月中を限不残津出シ仕廻可申候、

三月中旬より四月初迄皆納之積りニ候条、有油断間敷候事

一俵拵之義ハ先達而申渡候通ニ候、俵印之儀者重而可申遣候事
右之通村々百姓共へ急度可被申渡候、夏ニ至候程御米悪敷罷成候間、四月初ニハ不残納仕廻候様ニ可申付旨、団右衛門方へ申遣候間、早速仕立候様ニ村々庄屋長百姓呼寄可被申渡候、為其如此ニ候、以上

杉山織右衛門 印

二月六日

前谷村与頭

次郎左衛門殿

右之通之御書付被遣請取候

二月八日

同九日

同十日

同十一日

一十楽村与三右衛門方へ西拾三村庄屋長百姓呼寄候而、御廻米之義ニ付被仰越候御書付之段々庄屋長百姓中ニ委細申聞、御書付之奥判取申候

一滝谷町之内かり立町三拾四軒今夜□□の火事参候

同十二日

一十楽村へ宿へ罷帰り候

一友左衛門様を御状舟寄を村次ニ而参候、其趣者最前指上候絵図御用之書付「
」之由、前谷村吉介水夫ニ被召「
」

同十三日

一本組六ヶ村庄屋長百姓呼寄候而御書付之趣申渡し、御廻米村有米之吟味申渡し候
一舟寄善右衛門方を籠屋入札之事被申越候
一横垣村善右衛門と申者上乘ニ参度由願出申候

同十四日

一喜多嶋岡右衛門様・尾花園右衛門様、御普請所御見分ニ今日舟寄迄御越「
」被仰越候旨、舟寄善右衛門を「
」

同十五日

一右御兩人様を御普請所御見分ニ御越被遊候ニ付、十四日ニ舟寄ニ御泊り、十五日後山ニ御泊り、十六日前谷村へ御越可被成候間、御普請奉願候村順能案内可仕候由、并前谷村酒御改可被成候間、其段申付候様ニと被仰越候ニ付村々はいふ遣し候、清左衛門方へも申渡し候、御配符ハ返シ申候

(一畝)
□村觀音開闕を千年ニ当り候間、当三月を開帳仕「
」昇輿之

義共有之ニ付、近在村々少ツ、之奉加仕度由畝二郎兵衛願候ニ付、奉加之義村々心次第、畝村^(字根)之者ニハ紛無之由書付相渡し候、村々

廻り済シ候ニ付右書付返し申候

同十六日

一鹿毛三才馬壺正 青野木村九郎兵衛
式ツ屋口通り申下手形出し候

一村々御普請所為御見分喜多嶋岡右衛門様・尾花園右衛門様、後山を村々御廻り候て御越被遊、清左衛門酒御改被成御泊り被遊候
一宮谷・清王両村門樋伏替奉願候ニ付様子申上、場所不及御見分ニ御普請被成可被下由ニ而願状上申候

同十七日

一風雨ニ而御出不被成、御逗留被遊候

同十八日

一御兩人様是を笹岡・舟津・城・新家御普請所御見分被成候而、田中々村ニ御泊り被成候、舟津村ニ而御昼休被遊候、宮谷・清王両村門樋願候付、不及御見分被成可被下場所之由御断り申上候故、御見分ニ御越不被遊候、御駕人足御荷物御普請願申村々を村次ニ仕候

一三田村六右衛門殿を、旦那様御用有之候間二三日中ニ福居迄罷越候様ニと御状被遣候得共、御普請所御見分ニ右御兩人村之御廻り、又御廻米御用ニ中野元右衛門殿一両日之内ニ御越被成候ニ付御用

二懸り罷有候間、三四日之内ハ被參間敷由、返事金津長右衛門方
迄舟津村へ遣し申候

二月十九日

一右御兩人様田中々村御出被成候而、番田・重義御普請所御見分候
而、夫へ谷畠村へ御越被成、舟寄ニ御泊り、大野郡へ御越之筈、
人足ハ右之通村次ニ而

一西拾壹ヶ村庄屋長百姓田中々村才兵衛方へ呼候而、三国河内屋・
麦屋太兵衛立合御米詔米直段仕候

一中野元右衛門様御廻米御用ニ後山迄御越被遊候而、明日此方へ御
こし可被遊由被仰越候

一御普請御見分御兩人様へ明十八日鯖江へ御用状被遣候ニ付、笹岡
村之人足持參、御返事今日舟寄ニ而指上候由、友左衛門様御返事
被遣候

同廿日

一中野元右衛門様後山村へ御越候而、村々庄屋長百姓被召寄、御廻
米仕立之義御手本米御見せ被成段々被仰付候

同廿一日

一御米拵之様子御米請負仕候者共ニも可被仰付由ニ而、三国へ御越
被成候ニ付、平介・我等共ニ被召連三国へ罷出、境屋甚右衛門方

ニ泊り候て、御米請負仕候者共ニ委敷被仰付候、御遣人ハ四人井
江葭村、老人横垣村へ出し申候

同廿二日

一元右衛門様三国へ舟寄へ御越被成候

一重義五右衛門・番田久七・十楽与三右衛門・舟津徳兵衛・国影次
左衛門・武兵衛・井江葭義右衛門・笹岡宗左衛門三国へ罷出、境
屋甚右衛門・河内屋二郎右衛門・麦屋太兵衛・江池久右衛門・吉
江屋弥兵衛立合、手本米を以吟味之上御米上打銀之直段立申候処、
下米壹表ニ付四匁五分之上打銀ニ而御米仕立可申と申ニ付、右庄
屋中申候ハ、村へ罷歸り相談し仕明後廿四日我等方迄可申參由ニ
而究不申候

同廿三日

同廿四日

一米貳拾貳表内 拾九表下米
三表 銀詔

前谷村

一米百貳拾表

笹岡村

一米百九拾貳表

宮谷村

内 百六拾表
三拾貳表 下米有
銀詔米

一米

青野木村

一米

西方寺村

一米

清王村

一米 柿原十楽村

一米□五表 井江葭村

一米式拾表 赤尾村

一米六表 横垣村

一米式拾表 国かけ村

一米拾表 牛山村

一米式拾表 十楽村

一米拾四表 田中宇右衛門

一米拾三表 中村才兵衛

一米 番田村

一米 重義村

右ハ下米無之候ニ付延銀ニ而誂申度由村々断ニ候

同廿五日

一 团右衛門様上方御帰リニ付終ニ鯖江へ不参候故参候、御米御吟味つよく百姓迷惑仕候段、并村々下米不足仕百姓難義仕候由段々申上候

一 三国河内屋并御米宿共不残廿三日ニ鯖江・石田へ被召寄、河内屋御米宿之義相叶不申候由被仰渡候由

一 三田村六右衛門殿、福居彦右衛門様御屋敷迄罷出候様ニと当十八日ニ御状参候ニ付、御用候間三四日之内参事成間敷由御返事遣し、今日福居御屋敷へ参候而六右衛門殿ニ御意得候ハ、細呂木村

太郎左衛門方書付指上候其子細、右之太郎左衛門西方寺ニ御高を持罷有候ニ付西方寺ニ住宅仕度候処、与頭二郎左衛門方細呂木御支配の方指紙取参候様ニと被申候間、御指紙被下候様ニと願状出し申候、いか様之子細ニ候哉と御尋ニ付申上候ハ、右太郎左衛門と申候者西方寺村出生之者ニ而、三拾年以前ニ細呂木村へ入簪仕罷有、西方寺ニ而親分付之高有之候を下シ作ニ仕罷有候、然処去春太郎左衛門妻子家共ニ細呂木ニ指置□□其人斗西方寺へ参、嬬通之姉か家をかり罷有候得共、高も有之事ニ候へハ其通ニいたし置候処、おいの市郎兵衛と山之違有之由、夏中何角と出入申合候ニ付吟味仕候得共、無証拠出入ニ候故先其通ニ仕置候処、去九月ニ書付持参仕候付、御代官様も初而御入之事ニ候へハ、先達而書付取次申事もいか、ニ候間、少之内相待候様ニと申渡候て、鯖江へ参候而太郎左衛門段々申上候へハ、御役人衆被仰候ハ、細呂木之者共、西方寺之者共、住所不定之者之書付指上候共取次申間敷候、細呂木之者ニ候ハ、細呂木御支配の方付届之上出入ニ可仕候、若又西方寺ニ住宅仕事ニ候ハ、細呂木ニ而之段々吟味仕請人を取、西方寺村之者共納得仕村ニ指置被下候様ニと願を出し、其上吟味ニ而可指置候、無左候ハ、西方寺ニ置申間敷被仰付候ニ付、其段太郎左衛門ニ申渡し候へハ、其後参出入ハ下ニ而和談仕相済申由相断候ニ付、然上ハ申分出入無之との証文を取、其上ニ而村と和談仕、西方寺ニ太郎左衛門住宅仕候様ニと村人願状出し不申候而ハ、西方寺ニ罷有候事成不申候由申渡し候得共、

出入無之との証文も出し不申又出入も不申上西方寺ニ罷有、去極月廿日頃ニ請合之御年貢金不足ニ付、何とて相済不申候とせんき仕候へハ、米壺石斗市郎兵衛下シ米不足仕候ニ付、御年貢滞申由太郎左衛門申ニ付、下シ米之義ニ候ハ、□□兵衛せんき可仕候間、御年貢ハ早々相済申様ニと申渡、市郎兵衛呼候而下シ米之義吟味仕候へハ、去請田年貢米相済不申候得共、去春も市郎兵衛持山へ太郎左衛門立入、木柴大分切取申ニ付度々庄屋十右衛門ニ相断置候ニ付、其代米ニ押へ置申由市郎兵衛申ニ付、当春太郎左衛門

「下シ米ニ付出入ハ無之候、山出入有之ニ」 「相済不申候由申候間、山之義申分有之□□□□出入可仕候、扱又去年申渡し候通吟味もつまり不申、西方寺ニ住宅ハ不罷成候□早々細呂木へ可被帰候、此上ハ西方寺ニ罷有候ハ、金津へ御断可申上と申渡し候、尤西方寺ニ高を持罷有候共、村人納得不仕候而ハ西方寺ニ住宅ハ罷成申間敷候、右之段々被仰聞候上ハ、細呂木ニ子細□之相聞へ候得共、右之様子ニ候へハ西方寺之者とも和談仕間敷候へハ、住宅ハ難成候と六右衛門殿へ申上候へハ、様子承届候間太郎左衛門ニ子細聞届、重而可申入と御申被成候ニ付罷帰申候

前谷組

(マ、)

一麻木簀三拾四間 此代銀
一長九尺杭木六本 此代銀
一長式間杭木壺本 此代銀
一長式間竹百三拾六本 此代銀

「」 縄式束式把 此代銀

「」 「壺束 此代銀

一人足□壺人 此代銀

右ハ鯖江御陣屋惣垣御用ニ候間、一両日之内ニ出シ申様ニと二月十七日ニ被仰付候ニ付、彦五郎方も買立出し申由断ニ付、吟味仕候処相違無之候

二月廿六日

一団右衛門様被仰聞候ハ、御米納ニ当廿八日に三国へ御出可被成候間、村々へ申渡し段々津出致させ申様ニと被仰付候、就夫河内屋御米宿不仰付候上ハ請負米も成間敷様ニ被仰候ニ付、尤訛米之義河内屋ニ而無之候共、誰ニ而も可成事ニ候得共、三組共ニ不足米大分御座候ニ付河内屋を御米請負人ニ仕、下米を金津新屋方へ出し、延銀ニ而御米入申筈ニ御座候処、河内屋ニ御米請負不致候ハ、新屋下米をかし不申候ハ、百姓手つかへニ成可申と申上候へハ、御相談被成可被下由ニ而罷帰り候

一後山茂右衛門・舟寄善右衛門、今日鯖江へ参候ニ付、途中ニ而逢申ニ付、右之品々物語いたし候

一三田村六右衛門殿被仰聞候段々我等申上候義共、鯖江ニ而何れも御役人様方へ申上候而罷帰り候

一前谷村吉助請証文六介・市兵衛兩人判形ニ而証文指上候、則給金壺両取切ニ被下候ニ付、右之吉助当卯二月二日辰二月二日迄御

中間ニ被召仕、給金壺兩被下候ニ付儘ニ請取申候、右之吉助不意之事候而御暇被下候ハ、指引御算用仕、残り金返上可仕由我等添証文仕、小木友左衛門様へ指上候而金壺兩吉介へ相渡候処、貸金質物代銀有之ニ付、我等方へ相渡申ニ付請取申候

一金三分去暮悪金有之候ニ付、其代金掛屋仁兵衛方へかり候て指上候ニ付、其金子今日仁兵衛方へ返し相済申候

同廿七日

二月廿八日

一権瀬二郎右衛門参、年内へ度々申候笹岡市右衛門不罷帰候間、早々御訴訟可申上由断ニ付、今一応笹岡村へ申聞重而可申入由申候

同廿九日

覚

村々津出米為請取渡辺团右今日三国へ被相越、此方御代官所之分郡切ニ手本米团右方へ請取、津出米右手本米ニ引合吟味之上被請取答ニ候間、坂井郡之分各々申合、手本米五升程团右方へ早々指越可被申候、已上

二月廿八日

杉山織右衛門

坂井郡与頭中

一江戸深川妙栄寺并北品川野畑ニ、八九歳之男子切殺候者御尋之事御書付壺通、「」様へ被遣候を後山へ参候而請取候

三月朔日

一三国・金津出火之節、村々百姓共之内右両所へ為立寄申間敷由、三田村六右衛門殿へ御断之書状被遣候ニ付請取、則金津町庄屋方請取手形遣し申候

一御「」納役として团右衛門様三国へ御越「」何角之御用ニ三国へ罷出、則金津三田村六右衛門殿へ之御状御目ニかけ申候

同二日

一三国・金津出火之節村々へ罷出「」との証文ニ、村々庄屋長百姓判形取申候、并深川妙栄寺北品川ニ而切殺申者之御尋之証文ニ判形取申候

同三日

同四日

同五日

一笹岡作太夫高宗右衛門預り申証文奥判仕候

同六日

一右御尋之者之証文鯖江へ便り候間、遣し候様ニ後山被申越候ニ付後山へ遣し申候

一「」へ罷帰り候

同七日

(大宮茂富・福井藩金津奉行)

一大宮彦右衛門様金津へ御越ニ付罷出候而三国河内屋を申上候

一三国ニ而御廻米御納之斗升と村々之斗升と御□□可被遊候間、壹

組の斗升壹宛早々三国へ遣し候様ニと团右衛門様を被仰越候ニ付、

笹岡村之斗升三国へ明八日ニ遣し申様ニと「」

一金津□□家屋弥三兵衛、重義村之義ニ付参候付吟味いたし、重而

返事可申由申聞候

同八日

一村々御廻米入用銀請取申候

一金貳両壹分十楽村の入、内百拾匁四分三匁銀二入、拾三匁壹分三

厘引かへ銀二取、五匁絵図書物御仕書帳(置脱カ)かミ書ちん二入、四分七

厘過銀二而返ス

一金壹両貳分番田村の入、内拾貳匁壹分六厘ひかへ銀、三匁ハ御仕

置書帳かミ書ちん、貳匁ハ絵図之かミ代書ちん二入、七拾貳匁ハ

分九厘三匁銀

一金三分重義庄右衛門、貳分同五右衛門、メ壹両壹分、内拾匁匁九

分六厘引かへ銀二入、五匁右貳色之帳かミ代、五拾八匁四厘三匁

銀二入

一金壹両貳分、内五匁八分七厘ひかへ銀、五匁ハ右貳色帳かミ代、

七拾九匁壹分三厘三匁銀二入

一金壹両壹分銀拾匁七分六厘田中々村「」内九匁壹分七厘ひ
かへ銀、六匁帳かミ代、七拾三匁五分九厘三匁銀二入相済申由ニ
候

一金貳分田中々村宇右衛門、内六匁五分六厘ひかへ銀、貳匁帳かミ
代、貳拾匁匁四分四厘三匁銀二入

一金貳両国かけ村、内六匁七分八厘帳かミ、三匁ハかミ代、百拾匁
貳分貳厘三匁銀

一金貳分横垣村、内貳匁壹分貳厘ひかへ銀、貳拾四匁八分八厘三匁
銀二入、三匁帳かミ代

一金貳分銀五厘牛山村、内四匁五厘ひかへ銀、三匁帳かミ代、貳拾
三匁三匁銀

一団右衛門様の村々斗升不残指越申様ニと被仰越候ニ付、壹ケ村の
斗升壹ツ宛明九日ニ三国へ持参申様ニと申遣し候、次ニ御用之事
有之候間早々参候様ニと被仰越候得共、夜二入候故参不申候

一前谷村清左衛門印判為持鯖江迄遣し申様ニと、織右衛門様の御書
付被遣候ニ付、明九日参候様ニと申付候

一村々御普請所之義御目論見帳ニ御載被下候分、田植前ニふしんい
たさせ申度由、右御見分御役人岡右衛門様・園右衛門様へ書状為
持明九日ニ舟津の持参候様ニと申遣し候

一岡右衛門様近日江戸へ御立之由ニ候故、以書状御暇乞申上候、并
神田喜兵衛様へ書状ことつて申候

一重義村之者共ニ大文字屋の申懸ケ候事、早々相談いたし返事申来

候様ニと申付候

一金三両壹分銀六匁六分 城村^{太次兵衛} 借主
勘兵衛

此質山上ほう山之内不残 かし主同村二郎右衛門

「」 廿二日布目彦兵衛添判有

一金三両壹分銀六匁六分 借主右之三人

勘兵衛持分しの竹原式ケ所

此質物 太次兵衛持山狐垣内・からすかくね式所

藤兵衛持山代山・念仏田式ケ所

子十二月廿二日 貸主二郎右衛門 彦兵衛添判有之

右之貸金相済不申候由二郎左衛門を断申候

一笹^(岡村) 宗左衛門ニ市右衛門義段々申渡候

一三国へ御用候間早々参候様ニと团右衛門様を被仰^(付候カ)

三月九日

一三国参御用相勤候処、織右衛門様を造酒之義ニ付御用候間九日ニ

鯖江へ参候様ニと、七日之御書付三国へ持参申ニ付、造酒之義ニ

付御用^(村) 前谷 清左衛門遣し候様ニと御書付参「」、今日

清左衛門遣し候処、又候哉此御書付参候義難心得由团右衛門様へ

申上候へハ、是ハ御書違ニ而可有「」 及間敷由被仰候ニ付

不参候

三月十日

一織右衛門様を御廻米之義ニ付、村々御廻状被遣候ニ付、添書いた
し村々へ遣し候

一金津出火之義ニ付三田村六右衛門殿へ御見廻ニ参^{□□}、序細呂木
村太郎左衛門願之事段々吟味之上、願之義申上間敷由証文取置候
間、其旨相心得候様ニと御断ニ候

一三国を今日罷歸り候

同十一日

一当春御普請所之義ニ付岡右衛門様・園右衛門様へ書状遣し候処、
園右衛門様を御返事被遣候而請取置候

一前谷村武右衛門、備後福山を罷歸り候、御状共請取候

同十二日

一金壹両^(銀)錢壹匁五分メ六拾壹匁五分、青野木三匁銀之内十楽村五十
郎与之分、内式匁九分四厘わり銀ニ而、五拾九匁五分六厘三匁銀
ニ取、使十楽村弥市郎

同十三日

一御廻米津出し御用ニ三国へ詰番ニ参候

一備後福山を参候方々御状共、三国河内屋・布目彦兵衛・兵庫武兵

衛・長田源左衛門何も不残相渡し申候

一森川安右衛門・光明寺加兵衛・おえん方へ之状ハ前谷村武右衛門

持参仕候様ニと申相渡し候

同十四日

一人足拾五人内	八人水桶 七人熊手	十楽村
一同貳拾人内	十人水桶 十人熊手	田中々村
一同七人内	四人水桶 三人熊手	番田村
一同五人内	貳人水桶 三人熊手	重義村
一同拾人内	五人水桶 五人熊手	西谷村
一同拾人内	五人水桶 五人熊手	舟津村
一同貳人内	壹人水桶 壹人熊手	牛山村
一同五人内	三人水桶 貳人熊手	井江葭村
一同三人内	貳人水桶 三人熊手	国影村
一同貳人内	壹人水桶 壹人熊手	横垣村
一同八人内	四人水桶 四人熊手	藤沢村
一同拾人内	五人水桶 五人熊手	宮前村
一同三人内	貳人水桶 壹人熊手	谷畠村

右ハ三国出火之節火消人足右之通割付、則証文御役人様指上候、
留有

一 笹岡村市右衛門義二付権瀬二郎左衛門方へ願出候由二而、三田村
六右衛門殿へ御状被遣候を、権瀬村二郎左衛門へ相届請取候、則
团右衛門様へ右之段申上候へハ、笹岡村庄や長百姓ニ二郎左衛門
申立之儀為申聞候様ニ被仰付候

同十五日

一 城村忠左衛門・太次兵衛・藤兵衛三人三国へ呼寄候而、二郎右衛
門方へ訴訟之段為申聞、何とそ下二而和談仕候様ニと申渡し候
一同新田吉太夫・四郎左衛門・又左衛門三人共ニ三国へ呼寄候而、
右年符銀年々取方指引算用仕、書付指上候様ニと申渡し候、何とそ
下二而和談仕候様ニと申^(渡)候

一 西谷村太郎右衛門・伝兵衛・五郎右衛門三国へ呼寄候而、出入之
義聞候而何とそ下二而可相済候と申

一 森市左衛門鉄炮被召上筒ニ被仰付候「」平太左衛門ニ可申渡し、
然上ハ市左衛門・平太左衛門ニ御構無之御手紙被遣候

三月十六日

一米六拾四表今立郡御米之内、江波吉六へ「」蔵へ入

同十七日

一米貳拾六表番田村御米之内、麦屋太兵衛へ名村勘右衛門蔵へ入
一 西谷村太郎右衛門方へ判形有之壹紙之写シ持参仕請取候

一 城村二郎右衛門申来り候ハ、太次兵衛・藤兵衛方へ御百姓を何之
断もなく「」申越候事何共難心得候ニ付、書付指上候とて指
上候付、团右衛門様へ段々申上候へハ、下二而詮義「」と被
仰付候

□笹岡村宗左衛門・七兵衛ニ市右衛門義委敷申渡し候

同十八日

一城村太次兵衛・藤兵衛参候ニ付、下ニ而埒明不申候由ニ而二郎右衛門方（此上）書付指上候間、とかく乍（此上）□□とりほときせんき可有候、子暮式枚之証文六両式分余之金子之内面々かり本可有候間、何方ニ有之候哉と申聞候へハ、子之暮ニハ勘兵衛かり本壹両式分ニ御座候処、其後村中指引仕候へハ村之者共之かり金をも少々取込候ニ付、式両式分之勘兵衛「一、勘兵衛其外村之者共之かり金「一之質物を入させ判形取置候、何時「一用次第可指上由申候

一新家又左衛門兄吉兵衛と所帯分ケ仕、又左衛門者別家へ罷出候処、何角少つ、之申分有之候へ共、村人善兵衛・四郎□衛門・市郎右衛門（二）而双方埒明候而、今□金津ニ而かり銀其外銀拾匁斗之指引残り申事有之候処、塩浜道具式ツわりニ而又左衛門請取可申候処、相渡し不申候間被仰付可被下由又左衛門申来り候ニ付、右四人之扱人共ニ何とぞ埒明候様ニとはいふ遣し申候

同十九日

一新家村四人之扱人共参候而銀式拾匁余之出入事何角と相済不申、就夫塩浜道具吉兵衛押へ置相渡し不申候ニ付、先時分之物ニ候間相渡申様ニと色々申候得共、右之道具相渡し不申候と申ニ付、扱

人共へ申渡し候ハ、銀子取遣之事ニ候ハ、銀子ニ而取遣り可仕候、右道具共押へ申事不届ニ候間、右之道具ハ早々相渡し、其外出入之事も候ハ、申出候様ニと双方へ申渡し、道具ハ面々扱之通埒明候様ニと申付候

同廿日

一三国詰番之替りニ後山平介参候
一新家又左衛門参候而、扱人共段々被仰付候故道具共請取申由申来り候
一元右衛門様今日鯖江（三）三国へ御こし被成候

同廿一日

同廿二日

一城村二郎右衛門召仕同村次右衛門娘まんと申女、今夜縊死仕候由庄屋長百姓三国迄申来り候ニ付、則団右衛門様へ申上候得ハ、早々城村へ参親・一門・村人立合死骸相改候而、親・一門之口書・次郎右衛門口書・二郎右衛門召仕共之口書を取可申候、替事も有之候ハ、団右衛門様城村へ御越可被成由被仰聞候ニ付、早々城村へ参相改申処相違之事無之候ニ付而、何れも口書を取罷歸り候、三国ニ而団右衛門様へ様子申上候

三月廿三日

一城村縊死人まん親次右衛門・伯父弥右衛門・姉婿□左衛門・庄屋長百姓・五人頭共に三国へ召連参候而、团右衛門様へ段々申上候へハ、右之者共被召出候而段々□^(御)尋之処、何之相違も無之候ニ付口書三通に判形御取被成相済申候、則口書之留別紙ニ有、右之死骸取隠シ候様ニと团右衛門様被仰付候

同廿四日

一右三通之口書留書申候

同廿五日

一三国を罷歸り候

同廿六日

かり主笹岡村

一米八石 貸主熊坂村清左衛門

与三右衛門
庄屋長百姓
忠左衛門

此代銀貳百七匁

卯十月切利足貳割、但十月ニ相済不申候ハ、十年季本物返シニ可仕由奥判いたし候

同廿七日



一金壹両(印)

城村二郎右衛門を請取

是ハ城村忠左衛門去寅之御年貢未進金ニ家を売申代ニ候故指

上候由、断有之候付請取候得共、序無之候へハ是□鯖江□指上候事当分成間敷由断申聞候

一新□^(家利右衛)□門・四郎左衛門出入之儀ニ付書付持参仕候ニ付、此出

「一」扱候而下ニ而相済申度様ニ庄や長百姓も「一」扱之様子も聞届候而、相済不申候ハ、取次「一」相待候様ニと申渡し、書付者請取置候

一権瀬二郎左衛門と笹岡市右衛門出入之事、最前申渡し候処于今其□事無之候、様子聞届取次可申間明廿八日ニ庄屋長百姓参候様ニと申付候

一森平太左衛門殿江戸へ御引越候ニ付今日当村を立除被申候

一明廿八日ニ御米舟積被仰付「一」上乘之者耆人明五つ前ニ三国へ遣し可申候、次ニ上乘証文為□書可被成由ニ候間、宮谷村義太夫「一」八日ニ三国へ遣し申様ニと後山平介方被申越候付、上乘ハ横垣村善右衛門三国へ明早天ニ参候様ニと申遣し候、宮谷義太夫遠方ニ候故、国影村茂左衛門明早天ニ三国へ参候様ニと□^(重)義村之人足ニはいふ遣し候

同廿八日

一笹岡村市右衛門義ニ付、権瀬村二郎左衛門方々断有之候ニ付、笹岡村庄や長百姓・宗右衛門・七右衛門「一」右ハ二郎左衛門訴訟之通申聞候処、□□兵衛義ハ市右衛門持高之内八石三斗余、山ハ「一」此代米壹石九斗銀百貳拾匁証文之「一」、但

丑・寅兩年之利足さん用不仕候、同高拾壹石余ハ前谷村清左衛門方へ質物ニ相渡し候ニ付、証文之写も出し詮義可仕由申候得共、此義鯖江の御吟味ニ候ハ、証文之「一」申由□兵衛申候

一新家利右衛門・四郎左衛門出入之事、又左衛門・善兵衛・市郎右衛門扱ニ而相濟候ニ付、双方并庄や長百姓之証文取置候

一新家落堀ふしん仕度との書付取置候

一三国の敦賀迄御米上乘ニ仕度と願申者有之、兼而断有之候ニ付、

井江葭・舟津・番田三ヶ村ニ上乘願之者、明日此方へ参候様ニと申遣し候

同廿九日

一高 横垣村善右衛門

一高 前谷村茂右衛門

一高四石式斗七升五合 井江葭甚右衛門

一高四石 舟津村源右衛門

一高 十楽村与八郎

一金四兩舟津清右衛門持参、内壹分銀式匁壹分ハわり銀二入、三兩

二分銀壹拾式匁九分三匁銀二入、此銀手形重而相渡し可申筈

一三田村六右衛門殿の細呂木太郎左衛門訴状之写壹通、権瀬村二郎左衛門訴状之写壹通、右式通ニ御状被指添南金津長左衛門被遣候ニ付、跡の長左衛門方へ返事可遣由申聞候、并太郎左衛門山之割合書状以上三ヶ通請取候

同晦日

一西方寺村市郎兵衛・十右衛門呼寄候而、細呂木太郎左衛門訴状写渡し候て、有来り候通覺書仕候様ニと申渡し候

一番田村ニ上乘望申者無之由断申来り候

四月朔日

一御廻米御用ニ付三国へ参候

同二日

一横田数右衛門様備後江戸へ御越被成候ニ付森川迄御越被成、今日舟寄へ御越之由承候ニ付、三国の舟寄へ参候而御目に懸り三国へ罷歸候、御宮下としてとろめ足袋式足、はおり之平紐被下候、干王余魚十枚進上いたし候

一前谷茂右衛門上乘ニ三国へ参候而舟積仕候

同三日

一城村二郎右衛門・藤兵衛・利兵衛・太次兵衛・忠左衛門三国へ参候ニ付二郎右衛門出入之事、忠左衛門かり金式兩式分元利滞金ニ右書入、三口之山二郎右衛門取候而残貸金質物相改、二郎右衛門相談ニ相濟可申由、二郎右衛門其外之者共申ニ付、何も納得ニ而相濟重而証文取可申由申渡し候

同四日

一 御廻米船送状七通境屋ニ而書申候

一 昼九ツ過ニ笹岡村火事出来之由三国迄申来り候ニ付、七ツ下刻ニ

三国を罷出笹岡□参、「」惣左衛門・七右衛門・与三右衛門

ニ様子相尋候□□火元宗右衛門ニ而、屋敷四拾軒焼失之「」付
書付判形を取罷歸り候

同五日

一 笹岡村火事之義鯖江藤介様迄注進申上候

一 笹岡村不残火事ニ付火消不申候ニ付、宮谷村（木脱）人足拾七人、青野
村（寺村）拾四人、西方□□三人、清王（拾七人）、前谷村（六人）人足
を出し火を消申候、此段藤介様へ申上候

同六日

一 昨日鯖江（之）御返事参候木村平八殿被遣火事之様子御改可被成由
被仰□、則平八殿御越候而火事人壱人宛焼失物御改帳面ニ御書被
成候、平八殿私宅ニ御泊り被成候

同七日

一 木村平八殿鯖江御歸り被成候、送り馬壱疋「」を出し申候、
帳面留書有、庄屋「」召連御歸りニ候

同八日

一 御廻米御用ニ付三国へ参候

同九日

一 城村次郎右衛門・忠左衛門貸金出入之事、下ニ而和談仕相済申由、
右之兩人・藤兵衛・利兵衛・太次兵衛同道ニ而断ニ三国迄参候、
相済申段々□暮六兩式分銀拾三匁式分之貸金、夫年内迄少ツ、
入申利銀指引仕、元利残金七兩壹分銀七匁三分ニ罷成候内、三兩
壹分ハ忠左衛門分、此質物山代山壱ヶ所、上法山壱ヶ所、篠竹原
壱ヶ所、以上三ヶ所、此山手銀式分流山ニ而証文相究候、二郎右
衛門方へ相渡し申候四兩□銀七匁三分、太次兵衛・藤兵衛かり分
ニ仕、此質山ニ太次兵衛持山狐かいち壱ヶ所、からすくね一ヶ所、
藤兵衛持山念仏田壱ヶ所、代山壱ヶ所、惣分上法山不残、以上五
ヶ所、卯六月切之かり証文ニ而相済候、但証文年内之日付ニ仕候、
出入扱ニ而済証文ハ重而取可申筈ニ候

同十日

同十一日

同十二日

同十三日

一 友左衛門様国絵図之義ニ付村々へ御出被成候而、清王村と寺垣内

之間道間御打立、赤尾村と嫁落茶屋間之道法御打立、城村と新家之間道法御打立被成、城村二郎右衛門方ニ御泊り被成候

四月十四日

一友左衛門様宮前村と十楽村之間川掘かへ之場所御改、中番村と番田村之川掘かへ御改、谷畠・重義村川ほりかへ御改被成候而舟寄迄御帰被遊候

一大津廻米先割銀早々可被相納候、入用金無之指支候間其心得可有候

一廻米早々津出可被申付候、大津御蔵詰無油断可申付旨江戸へ被仰遣候間、村々へも急度可被申付候

一当卯之宗門改帳并去寅之御年貢割方名寄帳、去刁ノ八月も極月迄之村々諸入用帳致吟味可被指出候、以上

四月十三日

青山藤介印

坂井郡与頭三人

同十五日

同十六日

同十七日

一鯖江参候而笹岡村火事ニ而御米□之義笹岡市右衛門と権瀬二郎左衛門出入之事、細呂木村太郎左衛門・西方寺村市郎兵衛と出入事、則西方寺村□右衛門「」

一笹岡村火元惣右衛門証文壺通、同村武兵衛「」焼申願状壺通、木村平八殿へ指上申候

一細呂木村太郎左衛門訴状之写藤介様へ指上候得ハ、段々御吟味被遊候ニ付、西方寺村市郎兵衛申口不残申上候へハ、諸事先年之通ニ而相済可申事之様ニ存候間、三田村六右衛門殿と相談仕、何とそ下ニ而相済候様ニと被仰「」、出入之段々ハ左ニ記置可申候

一笹岡村市右衛門義ニ付、権瀬村二郎左衛門訴状之写藤介様へ指上候へハ、是も段々被仰聞候事共左ニ記置候

一笹岡村火事人飢命ニ及申義、農具等焼申ニ付耕作支ニ成申義、御米支申義、藤介様・織右衛門様・友左衛門様へ申上候へハ、御「」被遊可被下由ニ候

一御廻米入用銀之内金貳拾七両指上御手形有

同十八日

一右之通笹岡村類火人共御廻米貳百四拾三俵之内、九拾六俵下米三
国へ出し候て、残而百四拾七俵曾而可仕様無御座候間、何とぞ御
「」被遊被下候様ニと色々御訴訟申上候得共、火事人之義
御了簡被遊例無之由被仰候ニ付、然上ハ相与頭証人ニ而私ニ金を
御貸被下候様ニと奉願、金六拾七両拝借致候、但利足無之候而ハ
公儀へ御救之様ニ相聞へ重而之例ニも可成候間、世間並米壺俵ニ
付壺ケ月ニ銀五分宛定ニ而、笹岡村庄屋長百姓持高・山共ニ書入

させ、証文請取置候様ニと被仰付候

一福居迄罷歸り吉兵衛方ニ泊り候

一水海村寅年名寄帳壹冊、同村同年諸遣帳壹冊、為案紙借用仕候

四月十九日

一福居の直ニ金津へ參三田村六右衛門殿へ申達候ハ、最前細呂木村太郎左衛門訴狀之写被遣候ニ付而、西方寺市郎兵衛吟味仕候処、式拾八年以来右之太郎左衛門高九石之分一郎兵衛高と一所ニ仕置、下シ米を以算用仕来り候処、当年田地割取可申由申候得共、此高之義太郎左衛門一代之内とらせ候而、太郎左衛門相果候へハ取返し候様ニと祖父太郎兵衛申置候、依之先年福居御領之節の太郎左衛門百姓分ニ而ハ無御座、庄屋方も通も相渡し不申、御料ニ罷成候而も年々名寄帳・越高御改帳ニも出し不申候、然上ハ弥田畑わり渡し申事成不申候と申事ニ御座候、次ニ山取不足有之由太郎左衛門申上候得共、祖父太郎兵衛方の山七口、此山手銀壹匁四分五厘と相定置候、太郎兵衛持高式拾式石五斗ニ山を高割ニ可仕様ニ申出候へ共、山ハ山手銀応シ山を持候、山手銀之割方市郎兵衛式匁四分七厘、太左衛門ハ壹匁七分ニ而御座候、其上柿原村へ下シ山之義割取申度候由太郎左衛門申上候へ共、柿原村へ下シ山六口之内四口□拾六年前より度々出入仕取上ケ候処、山ハ銘々わり取申候、当年ニ至而俄ニ太郎左衛門ニ割渡し可申山ハ少も無御座候、残式口于今柿原村へ下シ置候得共、是以先年の山主究有之候得ハ、

太郎左衛門当り分之山ハ無御座候、次ニ子・丑・寅三年之間下シ米不足有之由太郎左衛門書付有之候得共、子・丑兩年ハ西方寺村大悪作ニ候故免ニ置申ニ付、当年何之申分も無之候処、去年太郎左衛門理不尽ニ西方寺村住宅可仕申候処ニ、其義相叶不申又細呂木へ立歸り候ニ付、其怨ニ色々之事申上候、刁ノ年下シ米之義成程不足仕置候、其義ハ去年中太郎左衛門西方寺ニ罷有、市郎兵衛・一郎右衛門持山数ヶ所、立木・柴共ニ大分切荒申ニ付、其山手米ニ押置候申候、扱又市郎兵衛持山式ヶ所書入、太郎左衛門方の銀子かり申由申上候、親太郎兵衛相果候而五年ニ罷成候処、ケ様之かし銀有之と申義太郎左衛門も不申聞、終ニ承及も無御座当惑仕候、とかく吟味之上之事ニ仕度と、市郎兵衛申口如此ニ候と申達候へハ、六右衛門殿被仰候ハ、左様ニ申ニおゐてハ出入も無之様ニ相聞候、然とも太郎左衛門方の訴狀出申事ニ候へハ、細呂木庄や中村彦三郎出し可申候間、何ニ而も立合双方吟味之上下ニ而相濟候様ニと御申ニ付、自分も御用取込罷有候間、追而彦三郎方へ書通いたし、寄合様子可承と申合候

一笹岡村市右衛門、権瀬二郎左衛門方を金子拾両預り候て取逃仕候義、年内の二郎左衛門内意申ニ付承届、市右衛門義江戸ニ罷有由ニ候得ハ急度呼返シ、御仕置ニ可被仰付由ニ候、併二郎左衛門義「一」有少之事ニ御仕置者を出し申との事ハ外聞もいか、二候間、内証ニ而市右衛門を呼寄候而何とぞ下ニ而相濟させ候へハ、御仕置者も無之、二郎左衛門も損「一」、併当分笹岡村も火

事之□□□候へハ、□□小屋懸ケも仕田地も植付候迄ハ御待可
「一」、二郎左衛門ニも其段断可申由申達候へハ、六右衛門殿
御申被成候ハ、二郎左衛門さへ納徳ニ候へハ指而此方取出し申事
ニ及不申候間、二郎左衛門ニ其断申聞候様ニと御申ニ付、右式ツ
之出入之儀如此ニ而金津の宿罷帰り候

一右六右衛門殿被仰聞候趣西方寺村一郎右衛門ニ申聞候

四月廿日

一笹岡村へ参惣百姓呼寄、火事ニ付御貸金出申例無之候ニ付少も御
貸被遊候事ハ不被成候、与下ニ而少宛もかり出し耕作仕付可申候、
権瀬二郎左衛門・金津新屋ニハ内証申置候間、庄屋長百姓参候而
米糶なとかり出し可申候、次ニ御廻米不足之分ハ、何様ニ仕候而
も相済不申候而ハ不罷成「一」、如何可仕哉と吟味仕候へハ、
何も一等ニ申候ハ、成程御廻米之義御免可有事共不奉存候得共、
当分何と可仕様も無御座候間、こかい時迄延銀ニ而御詔可被下候、
利足之義ハ何様ニも相立可申と申ニ付、然上ハ我等請合ニ而こか
い時迄延銀ニ而御米入させ可申候、然共大分之代金ニ候へハこか
い時ニも相済可申様ニも不存候、不足有之候而益後迄「一」又
御領分替り申事有之候共、於此金子ニ毛頭遲滞有間敷由相断候へ
ハ、何れも此金子之義後生を懸ケ遲滞仕間敷由申候

一市右衛門義鯖江ニ而之被仰渡、金津ニ而之段々不残申聞、此上ハ
田地仕付候ハ、村の市右衛門呼「一」可申候、又内証承候へ

ハ、村之内ニ右二郎左衛門の金子ヲ取出させ候而其金子をわけ取、
市右衛門を江戸欠落為致様ニ聞及候、弥左様之事有之候ハ、其談
合人方の早々市右衛門呼寄可申候、村の人を遣し市右衛門呼寄段々
相知候ハ、市右衛門同罪ニ可有候間、内証ニ而相談仕候様ニと
申付候

一権瀬二郎左衛門方へ参候而金津六右衛門殿へ申上候段々相断候へ
ハ、成程田地仕付候迄相待可申由申候

同廿一日

笹岡村かり主惣左衛門
市郎左衛門
七郎右衛門
宗衛門
一米拾三俵 但四斗六升入

此質物高拾三石 山居屋敷共

右之米卯十月切、利足村並、貸主権瀬二郎左衛門、自分奥判い
たし候

一笹岡村へ昨日申渡し候御米代金不残相渡、証文取置候

同廿二日

一用事共有之ニ付後山村へ参候

一権右衛門廿日ニ三国へ遣し、今日罷帰り候

同廿三日

一詰番ニ三国境屋甚右衛門迄参候

金三拾三両符付ニ而甚右衛門ニ預ケ申候

一御米壹表ニ付式拾五^(マ)八分、吉江屋善兵衛

四月廿四日

一米百四拾七表、笹岡村銀詔米吉江屋弥兵衛名村安右衛門蔵へ入

一金三拾三両、右代金之内弥兵衛ニ渡ス

一金壹両貳分、源氏代金日野屋彦九郎渡、但夫銀壹匁之日用ニ而三
国へ遣し申候

一金壹分喜右衛門ニかし、但通可申事

同廿五日

一舟積被仰付候、罷出候

同廿六日

一御米納申候

同廿七日

一雨天ニ而御米納り不申候

同廿八日

一御米納申候

一金三拾両三分、笹岡村宗左衛門ニ宿へ取寄申候

同廿九日

五月朔日

一金壹両、はらい方有

同二日

一金壹分、鈴木平七ニ遣し申候

同三日

一御米舟積仕、上乘二重義忠右衛門参候

同四日

一金貳分 御廻米先割銀内 田中々村
宇右衛門へ入

手形渡し不申候

一金貳拾両 御廻米代金之内 新屋
宗兵衛へ入

但預り手形遣し申候

同五日

一上乘北横地村武兵衛・重義村忠右衛門・宮領伝左衛門・舟寄半右
衛門・定次村孫兵衛・同村太左衛門右六人ニ給金之内壹分宛御貸
被成候ニ付、請取手形我等判形相添申候

一上乘十楽村与八郎金壹分、右同断

一金貳拾兩御廻米代金之内 かわちや 二郎右衛門二渡

但預り手形有

追而此書付可被相返候

同十一日

同六日

一高百三拾九石二斗六升八合

前谷村

同七日

一高六百貳拾貳石八斗三升

笹岡村

同八日

一高四百七拾八石七斗三升

宮谷村

一三国を罷歸り候

一高六百三拾貳石四斗四升

青野木村

一照嚴寺御隠居様京都へ之通手形□返し、此方へ持参候

三百四拾四石三斗六升九合
内百七拾貳石三斗八升六合
百拾五石六斗八升五合

青野木村分
十楽村分
清王村分

一高五拾四石五斗五升

西方寺村

同九日

一高百七拾貳石四斗壹升

清王村

一加州打越迄参候而大正持(大聖寺)又四郎方ニ泊り申候、布目彦兵衛・麦屋

一高貳百九拾四石六升九合

赤尾村

吉左衛門同道三人旅籠代金壹分ハ彦兵衛を出入、錢五拾文自分へ

一高百貳拾四石五斗壹升

横垣村

出入、銀貳匁自分へ吉左衛門ニかし

一高七百拾八石七斗四升

井江葭村

一高三百九拾七石四斗

国影村

同十日

一高貳百三拾七石七斗壹升

牛山村

一喜多嶋岡右衛門義今度於江戸暇願候ニ付、願之通暇出候旨申来

一高七百九石七斗四升八合

舟津村

候、対岡右衛門ニ出入申分も有之候哉村々吟味之上承届、有無

一高百貳拾五石八斗

城村

之訳書付ニ記早々可被指出候為其如此二候、以上

一高六石四斗九合

同新家

五月九日

小木友左衛門 印

一高百九拾九石六斗七升

西谷村

杉山織右衛門 印

一高七百六拾九石九斗五升

十楽村

青山 藤介 印

一高九百貳拾貳石八斗五升

田中々村

前谷村与頭
二郎左衛門殿

一高七百拾石貳升

番田村

一高七百壹石五斗

重義村

高合八千拾八石六斗四合

五月十二日

一大豆拾五俵、三国さかい屋甚右衛門の舟二積登申由二候得共、川
ニ水無之由申来候二付而、金津新屋惣兵衛方へ上ヶ置申様ニと申
遣し候

覚

一御米千八百三拾五俵 御廻米本途

内千壹俵 五月十一日□□納

残

八百三拾四俵

右之通米相納候間、与下村々吟味之上不足之村庄屋長百姓召連
可被参候、来ル「」舟積仕廻候条、若遲滞之村ハ庄屋長百
姓急度御仕置ニ可申付候、此書付ニ致付紙順々被相廻、留村の
其方請取重而我等方へ可被相返候、油断有間敷□^(候)

五月十二日

中野元右衛門 印

前谷村

与頭二郎左衛門殿

右之御書付ニ添書いたし村々へ遣し申候

同十三日

一喜多嶋岡右衛門殿御暇被下候二付、申分出入無之候哉と御尋ニ付、
自分方の与下村へ相尋候得共、申分出入無之由証文指入候、則後

山の可指上由二而遣し申候

同十四日

一三国詰番御用ニ参候

同十五日

一御米納御用

同十六日

同十七日

同十八日

同十九日

一舟津村御普請所入用之杭木・枝木請取ふしん仕度と申二付、御帳
面之通杭木・枝木等木屋方の可相渡候間、若江戸表ニ而御ふしん
ニ立不申候ハ、請負之直段を以代銀可相済之由、舟津村庄屋長百
姓之証文我等添判いたし木屋方へ遣し候

同廿日

同廿一日

同廿二日

預り申金子之事

合金五両壹分銀九匁五分

右之通我等方へ慥ニ預り置申処実正也、何時成共其方御用次第
無相違急度相渡し可申候、為後日預り状仍如件

元禄拾貳年卯五月 土屋二郎左衛門 印

境屋甚右衛門殿

右之外

銀壹匁五分 口錢

銀貳匁貳分五厘 金津迄舟賃

ノ三匁七分五厘

都合金五両壹分銀拾三匁貳分五厘

此大豆拾五表 壹表二付

内 貳表ハ 自分二取

壹表ハ 重義村 閏九月廿九日二済

五表ハ 笹岡村

三表ハ 番田村

壹表ハ 西方寺市郎右衛門

貳表ハ 清王村権兵衛

壹表 同九右衛門

右ハ大豆拾五表、三国境屋甚右衛門ハ貸付くれ申様ニと被頼候ニ
付、預り置方々貸付申候、代銀之義ハ右之通ニ而、当九月中ニ取
立相済可申定ニ而、我等方ハ証文相渡申候留右之通ニ候、右之金
相済十月十一日ニ手形□□

三国御用ニ相詰候日数改之事

一卯三月十二日夕ハ同廿日朝迄日数八日分

一同四月三日之夕ハ同十五日之朝迄日数十二日分

一同五月十四日之夕ハ同廿日迄日数六日分

右ハ元右衛門殿御代り候而鯖江へ御帰りニ付、何れも詰番之日数
相改、右之通立合帳ニ記置申候

五月廿二日迄三国蔵入米之覚

卯三月十七日 一米貳拾六表 麦屋ハ入

同晦日 一米六拾九表 舟津村

同 一米三拾七表 麦屋ハ入

四月五日 一米六拾壹表 十楽村

同□日 一米三拾三表 青野木村五十郎

同十二日 一米四拾九表 同村弥次兵衛

同十七日 一米□拾五表 田中々村宇右衛門

「 一米九拾壹表 河内屋入

同廿四日 一米百四拾七表 吉江屋入

同廿八日 一米七拾八表 笹岡村分 嶋池屋入

五月二日 一米九拾貳表 井江葭村分 舟津村

同日 一米拾五表 麦屋ハ

同日 一米七拾壹表 田中々村分 江波吉六ハ

同八日 一米九拾壹表 宮谷村 大坂屋藤七

内 三十表

同日 四十八表 井江葭村 嶋池屋

同十日 井江葭村 江波吉六

同日 一米貳拾九表 宮谷村 河内屋

同十三日 一米四拾表 笹岡村 武右衛門

同廿日 一米三表 同村 嶋池屋

一米三拾九表 内拾四表 横垣村

貳拾五表 青野木村

同廿一日 一米四拾壹表 河内屋

内九表 十楽村
六表 田中々村
七表 国かけ村
八表 井江葭村
六表 赤尾村
五表 西方寺村

ノ千七拾八俵

五月廿三日

同廿四日

同廿五日

一御廻米当月中ニ三国出し納申様ニと、
二付、添書仕候而村々へ遣し申候

一御口米年内御預ケ置被成候ニ付、
二と藤介様御書付被遣候

同廿六日

同廿七日

一三国を直ニ村々へ参、御廻米之事申付候而夕部宿へ罷歸候処、
日友左衛門様三国へ御越之由、明日团右衛門様三国を御歸り之由
ニ候故、御口米之義委細可承ため三国へ罷越候

一三国へ参候而团右衛門様・友左衛門様へ御意得、御口米之事申上
候へハ、御書付之通米ニ而境屋甚右衛門蔵来十日切ニ相納申様ニ
と被仰付候

五月廿八日

一御廻米請負方入方吟味仕候

同廿九日

六月朔日

同二日

一三国を罷歸り候

同三日

同四日

同五日

一銀九匁六分 井江葭村御廻米先割之不足請取申候

一大津廻米三国津出之義、昨日迄之納不足各組迄ニ而外組ハ濟寄候
一米四百三表 前谷組

一米四百五拾三表

後山組

右之通納不足有之候、是ハ何村ニいか様之子細ニ而只今迄ケ様ニ大分不埒ニ候哉、其段急度可令詮義候間、各早々此方へ可被参候、鯖江へ不足付毎日聞ニ被越候故、有躰ニ□□候段□氣之毒ニ候、此書付届次第早々可被参候、以上

六月五日

小木友左衛門 印

前谷村二郎左衛門殿

後山村平助殿

右之御書付舟津へ持参ニ付、後山へ遣し申候

覚

村々去寅之御年貢金急度取立上納可仕旨、御勘定御奉行様方へ被仰渡候、且又去寅之御年貢金何月何日何千両、何月何日ニ何程御金藏へ可相納旨、從旦那書付「一」形被成御勘定所へ御上ケ被成候間、御年貢金急度江戸へ可指下旨被仰下候、例年者少遅滞有之候而も其通ニ罷成候得共、当年ハ別而きひしく被仰渡、殊御金納日限右之通ニ付相極候へハ、毛頭延引難成候、村々残金之内三ヶ二ハ当月十五日切、三ヶ一ハ当月晦日限急度取立可被相納候、此廻状披見之上致印判順々相廻、留へ可被相返候

六月四日

渡辺団右衛門 印

青山 藤 介 印

坂井郡
与頭中

右之御廻状後山へ参此方留ニ候

一村々庄屋長百姓呼寄、宗旨御改百姓判取申候

一御廻米御急候間早々相済候様ニと申付候

一御口米ニ而三国境屋甚右衛門蔵相納申段、最前書付申遣し候通早々相納候様ニと申付候

一去寅御年貢残金当月中ニ不残「一」候間、村々吟味仕候様ニとかたく申付候

寅年御口米之覚

一米六斗貳升六合

前谷村

一米五石五斗四升八合

笹岡村

一米四石三斗五升

宮谷村

一米四石五斗壹升四合

青野木村

一米壹斗七升七合

西方寺村

一米壹石七斗貳合

赤尾村

一米六斗九升

横垣村

一米五石五斗五合

井江葭村

一米三石貳升

国影村

一米壹石四斗貳升六合

牛山村

一米五斗九升九合

西谷村

一米五石五斗貳升八合

舟津村

一米三石貳合

十楽村

一米三石三斗貳升貳合

田中々村

一米貳石五斗三升壹合

番田村

一米貳石五斗八升八合

重義村

一米壹石五斗八合

清王村

合米四拾六石六斗三升六合

此俵百拾貳表壹斗五升六合

但四斗壹升五合入

外

一米
(マ、)

城村

一米

同新家

六月六日

一御廻米之義二付三国へ参候而請負人之方吟味仕候処、代銀并上打銀共二村々ニ不足有之付、御米遅成申由申二付、村々へ代銀・上打銀共二早々一兩日之内ニ相済申様ニと申遣し候

一御口米之義御廻米並之米二而、三国町境屋甚右衛門蔵へ入候様ニと御代官所一等ニ被仰付候二付、何れも与頭中立合直段仕候処、四斗壹升五合入之壹表二付、貳拾五匁五分と相極候二付、村々銀高書付廻シ申候

同七日

一米五斗九升九合

西谷村

此代銀三拾六匁八分壹厘

一米壹石四斗貳升六合

牛山村

此代銀八拾七匁六分貳厘

一米三石貳升

国影村

此代銀八拾五匁五分六厘

一米五石五斗貳升八合

舟津村

此代銀三百三拾九匁六分七厘

一米三石貳合

十楽村

此代銀百八拾四匁四分五厘

一米三石二斗貳升貳合

田中々村

此代銀貳百四匁貳分貳厘

一米貳石五斗三升壹合

番田村

此代銀百五拾五匁五分三厘

一米貳石五斗八升八合

重義村

此代銀百五拾九匁三厘

一米五石五斗五合

井江葭村

此代銀三百三拾八匁貳分六厘

一米六斗九升

横垣村

此代銀四拾貳匁四分

一米壹石七斗貳合

赤尾村

此代銀百四匁五分八厘

一米壹石五斗八合

清王村

此代銀九拾貳匁六分六厘

一米壹斗七升七合

西方寺村

此代銀拾匁八分八厘

一米四石五斗壹升四合

青野木村

此代銀貳百七拾七匁三分七厘

一米四石二斗五升

宮谷村

此代銀貳百六拾七匁貳分八厘

一米五石五斗四升八合

笹岡村

此代銀三百四拾匁九分

一米六斗貳升六合

前谷村

此代銀三拾八匁四分七厘

米合四拾六石六斗二升六合

此俵百拾貳表壹斗五升六合 壹俵四斗壹升五合入

此代銀貳貫八百六拾五匁五分九厘

壹表二付貳拾五匁五分宛

外

一米

城村

此代銀

一米

同新家

此代銀

右ハ去习年御口米、三国町境屋甚右衛門蔵へ米二而入申筈ニ被

仰付候ニ付、一昨日何れもへ相談申処村々米無之由被申ニ付、

右之直段ニ而甚右衛門「」一誂申候間、代銀右之通取立、当

十五日ニ我等方へ少も不足なく持参可有候、若右之直段ニ而誂

申事成間敷と被存候時ハ、早々此方へ断可有候、以上

六月七日

土屋二郎左衛門印

右村々庄屋中

一御廻米之義ニ付、友左衛門様村々へ御廻状被遣候ニ付、添書い
たし村々へ遣し候

同八日

同九日

一村々御廻米之義申遣し候

同十日

一村々庄屋中被参候ニ付、御廻米之義段々申渡し候

同十一日

同十二日

同十三日

一村々へ御廻米之義申遣し候

同十四日

同十五日

一三国を罷歸り候

同十六日

六月十七日

一御廻米代銀不足之分早々三国へ持参候而相済可申旨、并ニ御口米
買立代銀も当十九日ニ三国へ持参候様ニと申触候

同十八日

一南金津米屋助右衛門方を宮谷村へかし申ニ付、其証文ニ御役人様
御裏判申請度由ニ候へ共、四五日中ニ鯖江へ参候間、其節御裏判
を取証文可相渡候間、金子之義かし渡しくれ候様ニと助右衛門方
へ手紙遣し申候

一御廻米之義ニ付今日三国へ参候

一銀貳百七拾七匁三分七厘 青野木村御口米代

内百五拾壹匁四厘 青野木村分

七拾五匁六分 十楽村分

五拾匁七分三厘 清王村分

一高九百貳拾貳石八斗五升 田中々村

内三百六拾八石 宇右衛門組

五百五拾四石八斗五升才兵衛組

一銀貳百四匁貳分式厘 田中々村御口米

内八拾壹匁四分

宇右衛門組

百貳拾貳匁七分貳厘

才兵衛組

同十九日

一金拾八両三分、去御年貢金・御口米代銀之内村々々請取候、河内

屋は、殿ニ預ケ置

同廿日

同廿一日

同廿二日

同廿三日

一金貳分銀六匁四厘田中々村々預り、但御廻米代銀之内河内屋へ可相渡筈、則太右衛門ニ相渡し候

同廿四日

一宮谷村・青野木村金子かり申証文ニ御裏判申請候

六月十六日七日大水ニ田畑痛申改之留

一高七百六拾九石九斗五升

十楽村

田方三拾五丁三反壹畝貳拾七歩之内

水入大痛

田拾丁五反七畝

右同断中痛

畑方拾壹丁四反四畝不殘

右同断大痛

ノ

一高九百貳拾貳石八斗五升

田中々村

田方四拾四丁五反九畝拾壹歩之内

水入大痛

田拾八丁余

右同断中痛

畑方居屋敷共二不殘
畑貳拾三丁五反余

右同断大痛

ノ

一高七百拾石貳升

番田村

田方貳拾三丁六反六畝廿歩之内

水入大痛

田壹丁五反

右同断中痛

畑方八丁五反拾歩之内
畑五丁五反

右同断大痛

ノ

一高七百壹石五斗

重義村

田方三拾三丁四反八畝之内

水入大痛

田七丁四反余

右同断中痛

畑方拾八丁壹反四畝之内

右同断大痛

畑七丁三反

右同断中痛

ノ

一高百七拾貳石四斗壹升

清王村

田方貳丁六反九畝之内

水入大痛

田三反八畝

右同断

畑方六丁壹反壹畝廿歩之内

畑壹丁

一高六百三拾貳石四斗四升

青野木村

田方貳拾六丁壹反壹畝廿歩之内

水入大痛

一高六百貳拾貳石八斗三升

笹岡村

田方貳拾四丁九反五畝之内
田四丁三反九畝

水入大痛

×

右者当六月十日時分(符)降続候大雨、十六日之々洪水、同廿日前後

迄右之田畑二つきつめ、立毛水下ニ罷成大分痛申候、殊地窪之田

地数日之義ニ御座候得ハ立毛根切仕、畑方大豆・小豆・粟等洗と

水腐リニ罷成候由、村々を書付判形を以訴出候ニ付、拙者方を御

注進申上候、以上

元禄拾貳年卯六月

坂井郡前谷村組頭

次郎左衛門 印

右書付指上候留如此ニ候

一城村・同新家塩浜出水ニ而崩申由書付指上候、留別紙ニ有

六月廿五日

一三国へ詰番ニ而罷出候

同廿六日

一舟津村田畑水入帳持参ニ候得共、与中不残指上候処侘申ニ付、御

取次申事如何可有候哉と申、書付預リ申候

一金三両貳分前谷・笹岡村上打銀之内河内屋ニ渡

同廿七日

一明廿八日ニ鯖江へ大割ニ何も寄合申筈ニ候故、御断申上三国を罷
歸り候

同廿八日

一金拾両貸主金津助右衛門、かり主宮谷村義兵衛・清右衛門、此

質高五拾石、卯十月切利足壹わり、团右衛門様御裏判□請候(申)

一銀三百匁貸主金津長右衛門、かり主青野木村庄屋長百姓、此質

高五拾石、卯十月切利□壹わり半、右同断(足)

一金五両貳分貸主十楽村庄兵衛、かり主青野木村庄や長百姓、此

質高三拾□石、卯十一月切利足壹わり、自分奥判いたし候

一金五両貸主金津惣兵衛、かり主番田村庄屋長百姓、自分奥判い

たし候

一高六百三拾貳石四斗四升

青野木村

此御年貢金六拾貳両銀拾三匁七分

此銀三貫七百三拾三匁七分

内 六拾貳匁四分 山手銀
七拾貳匁七分七厘 子ノ年符金

×百三拾五匁壹分七厘

残銀三貫五百九拾八匁五分三厘

但高拾石ニ五拾六匁八分九厘九毛余

此誤

銀九百八拾匁八分六厘

五十郎組

此金拾六両壹分銀五匁八分六厘

權兵衛組

銀六百五拾八匁貳分四厘
残 此金拾兩三分銀拾三匁貳分四厘

弥兵衛組

銀壹貫九百五拾九匁四分三厘

外

銀百三拾五匁七分七厘

山手年符銀

小以貳貫九拾四匁六分

此金三拾四兩三分銀九匁六分

ノ

米七拾五石 貳斗大津御廻米 青野木村

此表百八拾八表 高百石二拾壹石八斗九升四勺

此訳

米四拾石九斗四升七合

弥次兵衛組

米貳拾石四斗九升七合五勺

五十郎組

米拾三石七斗五升五合五勺

権兵衛組

ノ

一金九兩貳分銀拾貳匁 先割銀不足

一宮谷村義太夫鯖江割方立合二罷出候

同廿九日

一鯖江割方二参候、門兵衛方二而割合仕候

一金九兩三分 御廻米入用先割銀指上

内

残

九兩貳分銀拾貳匁 右之先割銀手形取、三匁重而御渡し可被
成由二而藤介様御預り

一当六月十六日七日之洪水之義、坂井郡与頭三人壹紙二而口上書指

上候、留別紙二有

同晦日

七月朔日

一鯖江大割相済、惣与頭立合庄屋判形仕、割帳御陣屋二而御改相済
申候、割帳之寄留別紙二有

同二日

一鯖江を罷帰、三国二而团右衛門様御用二付可参之处、洪水二而不
被参候二付金津泊り候

七月三日

一金津を三国へ参候而、最前之洪水二而田畑痛申二付御注進申上候
处、坂井郡与頭三人壹紙之書付指上候様二と、御陣屋二而被仰付
候二付、書付指上候段申上、書付之留書团右衛門様へ御目二懸ケ
候、并藤介様御状壹通、友左衛門様御状壹通、戸口弥左衛門状壹
通指上候

同四日

一此度兩度之洪水二而城村塩浜損亡二付御注進申上候得ハ、团右衛
門様明五日に城村へ御越被遊、御見分可被成由二付、庄屋二郎右
衛門・又左衛門二其段申渡し候

一三国を宿へ罷歸り候

同五日

一鯖江大割・組入用割ニ庄屋長百姓寄候而割方相済申候

一金三分 六月廿六日二入 横垣村

一金壹両 七月五日二入 同村

一銀壹両三分

内 式分銀拾四匁八分九厘 御口米代

三分銀五匁八分壹厘 御年貢金

残銀九匁三分 預り置手形不渡

一金拾両 七月五日入 宮谷村

内 四両式分銀拾三匁壹厘 御口米代

四両式分銀貳匁 御年貢金

残金三分銀壹匁九分七厘 預り置手形不渡

一銀壹匁貳分九厘 三匁銀過 青野木村

一銀貳拾六匁四分 同不足 前谷村

一銀貳百九拾壹匁六分 同不足 笹岡村

一銀壹匁九分三厘 同不足 青野木五十郎

一銀四分七厘 同不足 同村権兵衛

一銀六匁 同不足 西方寺村

一銀壹匁六分貳厘 同過 国かけ村

一銀八分 同過 牛山村

一銀五拾九匁壹分 同不足 舟津村

一銀拾九匁貳分 同不足 西谷村

一銀貳匁六分 同過 田中々村

一

一銀壹匁九分三厘 三匁銀不足 五十郎

一銀五匁八分六厘 御年貢不足

一銀拾貳匁五分貳厘 御口米代不足

一銀九匁七分 与頭半給

一銀三拾匁壹厘 柿原十楽村五十郎

青野木村分不足ニ付書付遣し「一」

□金貳両 卯六月十九日御口米代 清王村

一金壹両貳分 七月五日 同村

「一」三両貳分

「一」壹両貳分銀八匁壹分壹厘 清王口米代

三分銀八匁七分四厘 青野木口米代

一銀貳兩貳分銀壹匁八分五厘

残 三分銀拾三匁壹分五厘

内

壹分銀拾三匁貳分四厘 青野木村分

壹分銀拾四匁九分壹厘 清王村

一銀五拾八両三分銀四匁五分七厘 田中々村

此銀三貫五百貳拾九匁五分七厘

此 訳

金貳両銀三匁壹分貳厘

返納金

此銀百貳拾三匁壹分貳厘

内

金壹両銀拾四匁貳分五厘

才兵衛

金三分銀三匁八分七厘

宇右衛門

金五拾六匁三分銀壹匁四分五厘

此銀三貫四百六匁四分五厘

高拾石二三拾六匁九分一厘貳毛

内

銀貳貫四拾八匁八厘

才兵衛

銀壹貫三百五拾八匁三分七厘宇右衛門

都合金三拾五匁分銀七匁參分三厘 才兵衛

都合金貳拾三匁壹分銀拾貳匁貳分壹厘 宇右衛門

一銀貳百拾六匁壹分三厘

御口米代銀

高拾石貳匁四分四厘貳毛

百貳拾九匁九分四厘

才兵衛組

内

八拾六匁壹分九厘

宇右衛門組

一金三兩 六月十九日

田中々村才兵衛

一金壹兩三分七月五日

同人

ノ四兩三分

金貳両銀九匁九分四厘

御口米代

内

金貳両貳分銀五匁六厘

御年貢金

一金貳分

六月十九日才兵衛手形之内 宇右衛門

一金貳兩 七月五日

同人

ノ貳両貳分

内

金壹両壹分銀拾壹匁分九厘 御口米代

金壹両銀三匁八分壹厘 御年貢金

一城村塩浜兩度之洪水大分損候ニ付御訴訟申上候ヘハ、則団右衛門様三国御用ニ被成御座候ニ付、三国ノ城村ヘ御越被成塩浜御見分之上、口上書指上候様ニと被仰付、城村・同新家庄屋長百姓口上書指上申候、三国駕廻人足日用銀五匁城村二郎右衛門方ノ取カヘ出し候

七月六日

一村々指引算用仕立候

同 七日

一団右衛門様三国ニ被成御座候ニ付、近所村々庄屋中同道ニ而御礼

ニ罷出申候

一最前ノ申渡し候立金共、当十日ニ不殘持參候而相済被申候様ニと申触候

同 八日

「一」兩度之洪水ニ而村々田畑へ水入候段書付帳面指上候、留別
紙二有

同九日

一高九百貳拾貳石八斗五升 田中々村

田拾壹丁五反四畝 水入大痛

此高百五拾壹石四斗四升壹合

平均壹石三斗貳升壹合

田拾四丁貳反六畝 同中痛

此高百八拾八石三斗七升四合 右同断

畑拾九丁五畝 同無毛

此高貳百七拾五石貳斗五升貳合

平均壹石四斗四升五合

右ハ六月十六日・十七日之洪水、同晦日・七月朔日之洪水兩度
之水入ニ而作毛損亡仕候、田畑相改書付指上申候通少も相違無
御座候、以上

元禄十二年卯七月九日 庄や 才兵衛印

同 宇右衛門印

長百姓 勘右衛門印

又十郎印

弥五兵衛印

一高七百六拾九石九斗五升 十楽村

田貳拾三丁壹反 水入大痛

此高三百九拾壹石三斗 平均壹石六斗九升四合

田拾丁五反七畝 同中痛

此高百七拾九石余 右同断

畑拾壹丁五反 同無毛

此高百七拾六石六斗 平均壹石四斗八升四合

文言右同断 庄や 与三右衛門印

長百姓 仁兵衛印

同 彦兵衛印

同 清介印

一高七百拾石貳升 番田村

田拾壹丁 水入大痛

此高百六拾四石 平均壹石四斗五升

田三丁 同中痛

此高四拾三石五斗右同断

畑五丁五反 同無毛

此高七拾四石貳斗五升 同壹石三斗五升

文言同断 庄や 久七印

長百姓 又左衛門印

同 弥右衛門印

一高七百壹石五斗 重義村

田九丁貳反 水入大痛

此高百三拾五石三斗六升 壺石四斗壺升

田五丁貳反 同中痛

此高七拾五石三斗貳升 右同断

畑九丁八反五畝 同無毛

此高百拾四石六斗五升 壺石壺斗六升四合

文言右同断 五右衛門 印

九郎右衛門 印

利右衛門 印

七郎兵衛 印

一高七百九石七斗四升八合 舟津村

田四丁六反 水入大痛

此高

田五丁三反 同中痛

此高

文言右同断 庄や 徳兵衛 印

同 清右衛門 印

長百姓 弥次兵衛 印

同 五右衛門 印

右之寄

田五拾九丁四反四畝 水入大痛

此高

田三拾八丁三反三畝 同中痛

此高

畑四拾五丁九反 同無毛

此高

右之通此度兩度之洪水ニ而、拙者組下之内村々田畑へ水入、作

毛損亡仕候段帳面ニ記シ御訴訟申上候ニ付、相改候処少も相違

無御座候、以上

元禄十二年卯七月九日

（古郡年明・鱸江代官）
古郡文右衛門様御手代

渡辺团右衛門殿

右之通帳面指上候、留書

七月十日

一銀百五拾五匁六厘 七月五日入 田中々村才兵衛

一銀九拾七匁五分 七月十日 同人

一「一金壺兩貳分半切

貳百五拾貳匁五分六厘

内

百五拾七匁三分三厘 御年貢通ニ付

七拾匁六分九厘 わり銀

貳拾八匁六分三厘 与頭給

七分九厘 包ちん銀

貳百五拾七匁四分四厘

外
内四匁八分八厘 不足

金壹分 請取

内四匁八分八厘 右之不足銀入

残拾匁一分貳厘 つり返ス

一金壹両三分 田中々村才兵衛分 遣勘右衛門

内

百貳匁三分三厘 右惣立銀請取

貳匁六分貳厘 過二而つり返ス

右書付違二付如此二候、消申候

メ

一金五両 十楽村分 遣与右衛門

此銀三百匁

内

百九拾五匁三分壹厘 御口米代ニ□

百四匁六分九厘 小手形渡

一銀四拾三匁八分三厘 彦五郎諸色詔銀

「」 貳拾五匁 去暮の七月迄 はたこ代

「」 匁貳分八厘 取かへ物代銀

一銀壹匁五分三厘 去暮飛脚ちん、盛おとし

メ七拾四匁六分四厘 金壹両壹分

七月十日彦五郎ニ渡ス

一金三両 番田村

一金五両壹分 重義村

貳両 五右衛門入

内 三両壹分 九郎右衛門入

一銀拾五匁三分貳厘 新資金入

九匁壹分六厘 御年貢金

内 貳分七厘 包ちん

五匁八分九厘 わり銀・与頭給共ニ

メ 赤尾村

一銀百拾匁七分三厘 御口米代銀

一銀六拾八匁八分七厘 御年貢銀

一銀三分四厘 包ちん銀

一銀五拾七匁五分 わり銀・与頭給共ニ

メ 貳百三拾七匁四分四厘

内 百七拾貳匁五分 六月十九日・七月五日手形

六拾四匁九分四厘 七月十日銀入

一銀百拾貳匁四分六厘 国かけ村の入

此金壹両三分銀七匁四分六厘 七拾六匁四厘 わり銀・与頭共ニ

内 三拾六匁四分貳厘 御年貢方手形渡ス

一銀貳拾七匁三分三厘 横垣村^{わり銀}与頭給共ニ

内 貳分五厘 御年貢包ちん

残貳拾七匁八厘 わり銀・与頭給共ニ

九匁三分

七月五日二入銀

内

銀拾七匁七分八厘

七月十日二入

井江霞村

一銀三百四拾八匁壹分六厘

御口米代

一銀拾五匁四分五厘

御年貢金

一銀八厘

包ちん

一銀百三拾三匁五分九厘

わり銀・与頭半給共ニ

一銀四百九拾七匁貳分八厘

内

三百四拾五匁 六月十九日・七月五日二入

百五拾貳匁貳分八厘 七月十日二入

此金壹兩三分請取、拾貳匁七分貳厘過ニ而錢返ス

西方寺村

一銀六匁

三匁銀

一銀八匁貳分五厘

御口米代

一銀三拾六匁六分

御年貢金

一銀拾四匁五分三厘

わり銀・与頭半給銀共ニ

一銀壹分八厘

包ちん銀共ニ

一銀六拾八匁八分三厘

内

五匁五分

ミの壹ツ代銀

拾五匁

七月十日二入

残

四拾八匁三分三厘

かし銀証文有

青野木弥次兵衛分

一銀壹匁貳分九厘

三匁銀之内過

一銀百五拾匁

六月廿八日二入手形

此金貳兩貳分

一銀百九拾五匁

七月十日二入

此金三兩壹分

一銀三百四拾六匁貳分九厘

内

百五拾九匁九分貳厘

御口米代

百匁
□拾四匁六分

御年貢金

五分七厘

包ちん

六拾六匁五分貳厘 わり銀・与頭半給共ニ

一銀三百四拾壹匁六分壹厘

残

銀四匁六分八厘

過ニ而錢返ス

一金貳兩貳分

舟津徳兵衛を預り

七月十一日

一村々田畑水入帳、番田村を為持三国ニ而団右衛門様へ指上申候、

後山水入帳も一所二遣し申候

一銀五拾壹匁貳分六厘

青野木村五十郎

此金三分銀六匁貳分六厘

一銀三拾三匁壹分六厘

宮谷村

此金貳分銀三匁壹分六厘

一銀百八拾匁

笹岡村

此金三両

八拾五匁五分 自分かし

内 九拾四匁五分 立銀之内二入

一銀百五匁 西谷村

此金壹両三分

一人足百七拾四人 笹岡村

此米八斗七升

此銀三拾九匁六分壹厘 壹石四拾五匁五分三厘

一人足貳百五拾五人 城村

此米壹石貳斗七升五合

此銀五拾八匁五厘

一人足三拾七人半 同新家

此米壹斗八升七合五勺

此銀八匁五分四厘

一人足貳百貳拾五人 番田村

此米壹石壹斗貳升五合

此銀五拾壹匁貳分貳厘

一人足五百三拾四人 舟津村

此米貳石六斗七升

此銀百貳拾壹匁五分七厘

合人足千貳百貳拾五人半

此米六石壹斗貳升七合五勺

此銀貳百七拾八匁九分九厘

此金四両貳分銀八匁九分九厘

一銀百拾四匁壹分五厘 牛山村

此金壹両三分半切銀壹匁六分五厘

内

貳匁七分八厘 御口米代不足二入

六拾四匁四分六厘 御年貢金不足

四拾六匁九分壹厘 わり銀・与頭半給

一銀百貳匁三分三厘 田中々村才兵衛の七月十日ニ請取

内

九拾匁四厘 宇右衛門と立合算用ニ而才兵衛分可立銀ニ出候ニ付請取

残 拾貳匁貳分九厘 銀子ニ而勘右衛門ニ返ス

昨十日之算用宇右衛門と立合不申候ニ付、違有之候故今日立合、

右之通ニ而相済申候

一金貳両三分銀八分九厘 田中々村宇右衛門

此銀百六拾五匁八分九厘

一金壹両銀三匁八分壹厘 同人七月五日入

一銀貳匁六分 三匁銀之内同人過上

ノ貳百三拾貳匁三分

内

六拾六匁六厘 わり銀・与頭給銀

百六拾五匁三分五厘 御年貢通ニ付

八分九厘

惣御年貢包賃

一銀六拾八匁九分六厘

清王村權兵衛
九右衛門

一銀貳拾九匁九分壹厘

七月五日手形

ノ九拾八匁八分七厘

内

四拾壹匁六分貳厘

清王御年貢金

貳分壹厘

包ちん

三拾五匁六分七厘

わり銀・与頭半給銀共

貳拾匁七分六厘

青野木村分右同断

壹分四厘

同村包ちん

四分七厘

同村三匁銀不足

一銀貳百匁九分八厘

七月十一日番田村入

此金三両壹分銀五匁九分八厘

一銀九拾匁

七月五日同村入

此金壹両貳分

一銀百八拾匁

七月十日同村入

此金三両

ノ四百七拾匁九分八厘

内

百六拾四匁六分七厘

御口米代

百三拾貳匁壹分三厘

わり銀・与頭半給

百七拾三匁九厘

御年貢金

壹匁九厘

惣御年貢包賃

ノ

一高七百九石七斗四升八合

舟津村

内

貳百貳拾七石貳斗七升三合 清右衛門与

四百八拾貳石四斗七升五合 徳兵衛組

銀拾九匁五分

山手銀

五匁九分五厘

清右衛門

拾三匁五分五厘

徳兵衛

金壹両三分銀七匁七分九厘 返納金

此銀百拾貳匁七分九厘

内 三拾八匁九厘

清右衛門

七拾四匁七分

徳兵衛

銀四貫三百匁四分九厘

内 壹貫三百七拾七匁九厘 清右衛門

貳貫九百貳拾三匁四分 徳兵衛

都合銀壹貫四百貳拾壹匁壹分三厘 清右衛門

此金貳拾三両貳分銀拾壹匁壹分三厘

都合銀三貫拾壹匁六分五厘 徳兵衛

此金五拾両銀拾壹匁六分五厘

銀三百五拾九匁六分五厘

内百拾五匁壹分六厘

清右衛門

貳百四拾四匁四分九厘

徳兵衛

一金貳分

舟津村徳兵衛

一金貳両

七月五日 同人

一金貳両貳分

同十日 同人

ノ五両

此銀三百匁

内

貳百四拾四匁四分九厘

御口米代

残

五拾五匁五分壹厘

預り手形渡

御年貢金・わり銀・与頭給之内ニ可成銀

一金三両貳分

舟津村清右衛門

此銀貳百拾匁

内

五拾九匁壹分

三匁銀不足

百拾五匁壹分六厘

御口米代銀

三拾五匁七分四厘

預り手形渡

一金貳両貳分

城村二郎右衛門

一金壹両

三月廿七日 同人

一金四両

六月十九日 同人

ノ七両貳分

此銀四百五拾匁

内

貳拾貳匁三分

わり銀・与頭半給銀

貳匁三分六厘

包ちん

四百貳拾五匁三分四厘

御年貢通二付

此金七両銀五匁三分四厘

内五両 七月五日通二付

二両五匁三分四厘七月十一日通二付

一金四両壹分銀六匁四分四厘

十楽村与三右衛門

一金壹両貳分銀拾四匁六分九厘

七月十日二入

ノ三百六拾六匁壹分六厘

内

貳百三拾貳匁壹分

御年貢金

此金三両三分銀七匁壹分

壹匁壹分六厘

右之包ちん

百三拾貳匁八分七厘

わり銀・与頭半給銀共二

外拾匁わり之内ひかへ銀二引

十一日惣金

ノ貳拾七両貳分半切三匁三分八厘

七月十二日

一金壹両三分

七月十一日二入 西谷村

一金壹両

同十二日二入 同村

ノ 式両三分

此銀百六拾五匁

内

八匁四分

年内小わり

拾九匁式分

三匁銀卯春分

三拾八匁九分七厘

御口米代

四拾匁五分六厘

わり銀・与頭半給

壹匁

惣御年貢殘金包ちん

五拾六匁八分七厘

御年貢金之内

此金三分銀拾壹匁八分七厘

ノ

一金壹両式分 前谷村市兵衛ノ請取指引

□□諸色指引帳ニ有

一銀三拾八匁九分四厘

重義村

一銀百五拾匁

七月五日同村ノ入

此金式両式分、内壹両壹分五右衛門、壹両壹分庄右衛門

一銀三百拾五匁

七月十日同村入

此金五両壹分、内式両五右衛門、三両壹分庄右衛門

三口ノ五百三匁九分四厘

内

百六拾八匁三分八厘

御口米代

式百三匁九分五厘

御年貢金

壹匁式厘

右包ちん

百三拾匁五分九厘

わり銀・与頭半給共ニ

七月十三日

寅御年貢小物成并拝借返納共納方目録

一金七百三拾七両壹分銀拾壹匁六分式厘

内

六百六拾五両

寅年中上納

式拾両三分銀四匁九分八厘 酒運上金

四拾式両式分

卯七月十三日鯖江遣ス

小以七百式拾八両壹分銀四匁九分八厘

殘

金九兩銀六匁六分四厘

直段違仕如此ニ候

内 四両壹分銀拾壹匁七分三厘

是ハ御普請ふち被下筈之間請上納可仕候

四両式分銀九匁九分壹厘

是ハ盆中取立上納可申候

右之通卯七月十三日取立上納仕候、殘金之義者盆後迄御指延可被

下候、以上

元禄十二年卯七月十三日

二郎左衛門 印

渡部団右衛門様

右之通目録指上申候、権右衛門遣し申候

一前谷村武右衛門・同村市右衛門鯖江へ御金上ケ、新庄平左衛門方

へ盛銀為持遣し候、つれ無之候ニ付兩人遣し申候、遣し候金高通
留帳ニ判形有

一銀六百六拾貳匁八分六厘 村々不足、西方寺共ニ

此金拾壹兩銀貳匁八分六厘

内九兩六匁六分四厘 公義不足

残

金壹兩三分銀拾壹匁貳分貳厘

外

金拾壹兩三分 有金

金貳兩三分 弘方有

金貳分六匁六分五厘 右同断

小以拾七兩銀貳匁八分七厘

此銀壹貫貳拾貳匁八分七厘

内

貳百九拾八匁 上打銀

百貳拾匁 里夫方

五百四拾四匁壹分六厘 指引帳之面

百三拾匁七分三厘 利銀取

ノ壹貫九拾貳匁八分九厘

内七拾匁貳厘 違有

一御口米代銀相濟、米手形三国境屋甚右衛門方を請取

七月十四日

一銀四拾五匁七分城村不足銀請取、是ハ右不足銀書出し申内也

一前谷武右衛門・市右衛門鯖江を罷歸り、持参金上ケ手形請取其外
指引相済候

七月十五日

一三国へ参候

同十六日

一城村・同新家庄屋中、团右衛門様最前塩浜御見分ニ御越被成候御
礼ニ罷越候

同十七日

同十八日

一御廻米船今日不残出船いたし候

同十九日

一年四拾七ノ女壹人 番田村 久七妻

一年六十貳才ノ女壹人 庄兵衛母

右ハ京都本願寺参板取口通手形出し申候、七月廿一日、此手形八
月十七日ニ取返し消申候

同廿日

一銀三匁 赤尾村

一銀四匁 井江葭村

一銀三匁 国影村

一銀四匁 舟津村

一銀三匁 笹岡村

一銀五匁 田中々村

一銀貳匁 城村

一銀壹匁 新家

一銀貳匁 西谷村

一銀貳匁 前谷村

ノ貳拾九匁

右之通之帳面仙桂へ相渡し申候

一明廿一日ニ団右衛門様三国を御出被成、村々水入所・川除所御見分可被成由三国を被仰遣候ニ付、御迎人足三人番田、三人田中々村、十楽村与三右衛門めしつれ三国迄参候様ニと申遣し候、其外村々へ明日御出之由申遣し候、御昼休ハ田中々村才兵衛方へ申付候、右三国を被仰越候使之者日用銀壹匁貳分相渡し申候

一当卯御年貢来辰春御廻米御免被下候様ニと、石田方願状指上申由ニ而、案文布目を被指越請取候

一彦兵衛・武兵衛上方出立之義、明廿一日不暁ニ罷出候由被申越候

同廿一日

一団右衛門様御用有之ニ付、今日ハ村々へ御出被成間敷由被仰越候

ニ付、与下村々へ其通申遣し候、後山・舟寄へも其通申越候様ニと被仰越候ニ付申遣し候

一権右衛門今日伊勢参宮ニ付罷立候、則友左衛門様へ書状遣し候、是河内屋事申上候、織右衛門様・後山権左衛門大津御勤付書状遣し申候

一三国へ参団右衛門様村々御廻り之様子申上候

同廿二日

一団右衛門様三国を御出被成、舟津・番田之当春被仰被下候御普請、御見分ニ被遊候而、同田中々村・十楽村水入田畑御見分ニ候

同廿三日

一三国を罷歸り候

同廿四日

同廿五日

一銀四拾四匁五分三厘鍋屋彦三郎ニ渡、但遣才藏ニ而

同廿六日

一友左衛門様(鳥犀巴)うさいゑん御望ニ付、前谷武右衛門金沢へ遣し申候

同廿七日

一武右衛門うさいゑん三具かい候而罷歸り候を、前谷村吉助為持友
左衛門様へ指上候

覚

一舟寄村の三国迄三里内

陸路何里
川路何里

一何村の三国迄何里内

陸路何里
川路何里

右川筋廻米百石ニ付運賃米何程宛之定以年々渡シ来申候
右之通相違無御座候

卯七月

坂井郡何村与頭

たれ 印

青山藤介殿

一村々る三国湊迄廻米津出し道法、陸路・川路何程、但川舟賃廻米
百石ニ付何程ツ、定二候哉書付可被指出候

一金津川筋・兵庫川筋、如此之川名書付可被申候、此外川之名於有
之者尤書記可被申候

一右之通組切横帳ニ成共認候ハ、相違無之旨奥書致印形可指出候、
則案紙指遣候間可得其意候、以上

七月廿六日

青山藤介 印

坂井郡与頭中

此書付并案紙共二重而可被相返候

七月廿八日

一右之趣村々申遣し、舟賃米吟味仕候

同廿九日

一前谷村の三国迄五里余

内 半里内陸路 但御簾尾村迄
五里 川路 右之所ニ而舟積仕候

一笹岡村の三国迄六里

内 壹里 陸路 但矢地村迄
五里 川路 但右之所ニ而舟積仕候

右両村御廻米、金津川の三国へ津出し仕候、川舟賃御廻米壹石ニ
付米壹升宛

一宮谷村の三国迄四里半

内 壹里 陸路 但金津迄
三厘半 川路 右之所ニ而舟積仕候

一青野木村の三国迄四里半

右同断

一西方寺村の三国迄四里余

内 半里余 陸路 但金津迄
三里半 川路 右之所ニ而舟積仕候

一清王村の三国迄四里

内 半里 陸路 但金津迄
三里半 川路 但右之所ニ而舟積仕候

一赤尾村の三国迄四里半

内 壹里 陸路 但金津迄
三里半 川路 但右同断

一横垣村の三国迄三里半

内 半里 陸路 但重義村迄
三里 川路 但右之所ニ而舟積仕候

一井江葭村の三国迄三里半

内 半里 右同断
三里 右同断

一国影村の三国迄三里半

内 半里 右同断
三里 右同断

一重義村の三国川路三里

但當村ニ而舟積仕候

一番田村の三国迄川路三里

右同断

右拾ヶ村之御廻米、金津川の三国へ津出し仕候、川舟賃御廻米

石二付米七合五勺宛

一田中々村の三国迄川路式里半

但當村ニ而舟積仕候

一十樂村の三国迄川路式里半

但當村ニ而舟積仕候

右両村之御廻米、金津川の三国へ津出し仕候、川舟賃之義御廻

米壹石二付米六合宛

右八拙者下村々々三国迄川路道法御尋二付、積りを以書付指上

申候、并御廻米津出し川舟賃之義、村々吟味仕書付指上申通少も

相違無御座候、以上

卯七月

坂井郡前谷村与頭

次郎左衛門 印

青山藤介殿

右舟賃改帳指上申候二付、右之通留二□

八月朔日

一来辰春御廻米跡々之通被仰付被下候様ニと、石田方与頭中願狀指

上候由ニ而、其下書此方へ被指越如此之願狀指上候間、鯖江へも

申上可然由被申越候二付、右之願狀下書三国ニ而右衛門様御目

ニ懸候へハ、鯖江御持参被遊御相談可被遊由被仰聞候、然処右願

狀之義二付被仰渡御用候間、今日与頭中参候様ニと、昨日右衛

門様へ被仰越候、次二十樂村布目堤境水圍堤上置最前願上ヶ候堤

長間数何程有之候哉、打立書付指上候様ニと被仰越候

一我等義氣分惡敷候二付、其御断ニ武右衛門遣し申候二付、善右衛

門・平介方へも其断申入候、去寅御年貢勘定帳右衛門様へ遣し

申候、昨日仕立候御廻米舟賃帳ハ藤介様へ遣し候、金四両式分半

切為持遣し候、御年貢不足金二指上申答二候

一右之通十樂村へ申遣、明二日二書付鯖江へ指上候様ニと申遣し候

同二日

同三日

同四日

一去寅御年貢御勘定下帳ハ右衛門様へ指上候由、舟賃改帳ハ藤介

様へ指上候由、来卯春御廻米跡々之通被仰付被下候様ニと、与頭

不殘連判ニ而願狀指上候由、留書別紙ニ有、村々へ指出御裏判可

申請御勘定目錄案紙被遣候、并与下之内除地持主相改、書付判形

取指上候様ニと案紙被遣請取申候、武右衛門今日罷歸り候

一金四両式分銀九匁九分壹厘 御年貢金上納

内四両貳分半切自分ゝ、貳匁四分壹厘武右衛門取かへ

一金四両貳分銀八匁九分九厘 藤介様ゝ請取上納

村々卯春御普請扶持代

貳口ノ九両壹分銀三匁九分 通帳之表

外貳匁八分右之包賃、武右衛門取かへ

内

貳両貳分銀九匁九分壹厘 笹岡村通帳二付

貳両 西谷村通帳二付

小以四両貳分銀九匁九分壹厘

残 金四両貳分銀八匁九分九厘 通帳可付分

内

壹分銀拾三匁貳分八厘 笹岡村

五厘 横垣村

壹両三分銀七匁七分八厘 舟津村

壹分銀八匁三厘 西谷村

銀拾壹匁八分九厘 田中々村宇右衛門

三分 番田村

三分銀七分 城村

小以金四両壹分銀拾壹匁七分三厘

残 銀拾貳匁貳分六厘 通帳之面過銀□

今度御検地之上を以相改、当村高之外拾石之所并居屋敷共二令

寄進訖、全可有知行者也

慶長三

霜月十二日

溝江大炊

書判

家吉村

安養院

床下

同五日

同六日

一村々除地御改二付、除有之村々へ申遣し候て判形取申候

一十楽村川除并水簀^(懸)堤御普請之義二付、团右衛門様ゝ御書付被遣候

二付、其段十楽村へ申渡し候

同七日

同八日

一城村塩浜損所二付团右衛門様為御見分と、今日城村へ御こし被成

候由被仰越候二付、我等も参塩浜御見分之处、城新家之者共申上

候ハ、只今御普請被仰付被下候而も、最早当年塩焼申余日無御座

候へハ間二合不申、自然冬中高波二而又打崩候へハ無詮候間、御

普請来春御見分被遊被仰付可被下候、次二当年塩大分焼おとり申

候間、七石五斗之御役塩御免被下候様ニと願状指上候、尤留書有、

三国を駕廻し御着かへ持人足日用銀七匁、城村二郎右衛門ひかへ

出し申候

八月九日

一城村の罷歸り候

同十日

一団右衛門様今日十楽村御普請御見分ニ御越可被成候処、御痛有之候而御出なく候

同十一日

一当五日も今朝迄ニ庭普請仕廻申候

一団右衛門様後見廻ニ参候

同十二日

同十三日

一十楽村へ団右衛門様御出被遊候而御普請所縄はり被成候、則村普請ニ仕度由願状指上申二付、十楽村斗ニ而仕立候様と被仰付候、尤留書有、駕廻人足代四匁十楽村の取かへ、我等も相済候ニ付宿罷歸り候

同十四日

同十五日

板取口罷通女請状之事

一四十七歳女老入

一六十二歳女老入

ノ式人

右者 古郡文明・鯖江代官
(古郡文明・鯖江代官)

参詣仕度旨願出申候、板取御口留罷通候様ニ御手形被遣可被下候、罷歸候節此手形引替可申候、為其如此ニ御座候、以上

元禄十二年卯七月廿三日

古郡文右衛門手代

青山藤介印

(渥美友信・福井藩寺社町奉行)
渥美新右衛門殿

一御廻米大津ニ而欠米有之二付、大津ニ而買納被成被下候様ニと、与頭中口上書指上候様ニと団右衛門様御案紙被遣、本紙認判形仕後山へ遣し、夫の舟寄へ遣し鯖江へ指上申答ニ候、留別紙ニ有

一除地御改帳も舟寄の可指上由ニ而後山の舟寄へ遣し候

一右番田村女通手形、木村平八殿迄舟寄の遣し候様ニと申遣し候

同十六日

同十七日

一御廻米欠米口上書、除地帳面、番田村女通手形共ニ御請取之由藤介様の被仰越候、女通手形本証文御返しニ付消申候

一井江葭村安養院除地溝江大炊殿御書付、安養院奥書判形為仕候而指上候様ニと案紙被遣候、尤留別紙ニ有之候、安養院判形取候

同十八日

同十九日

一去寅之御口米村々る三国迄出し候ニ付而、陸路駄賃・舟路運賃御

渡し可被成由、村々請取証文之案紙被遣候を後山へ参候而請取候

八月廿日

一右井江葭村安養院除地之書付、後山茂右衛門上方へ被参候二言伝
鯖江へ指上候

覚

一錢三百文 上下式人老泊り百文宛
老入二付四拾八文つ、

右ハ当寅之御年貢金為御取立、十二月廿四日之晩同廿七日之朝迄御逗留之日数を以、飯米代并塩噌・野菜・薪代御渡慥ニ請取申候、所之相場を以直段御吟味之上御勘定仕立、老入前之積り相違無之候、所ニ無之魚鳥并酒一切用不申候得ハ、右之外少も入用無御座候、然上ハ此外入用有之由申掠村中へ割懸候義後日ニ露顯仕候ハ、当人ハ不及申庄屋長百姓・五人迄御詮義之上、急度曲事ニ可被仰付候、以上

元禄十一年十一月廿七日 前谷村宿
二郎左衛門

庄や
市 兵 衛
長百生
六 兵 衛

渡辺団右衛門殿

覚

一錢四拾八文 上下式人分昼休

右ハ当村塩浜為御見分卯七月五日昼休

文言右同断

元禄十二年卯七月五日

城村宿
二郎右衛門
藤 兵 衛
二郎兵衛

渡辺団右衛門殿

覚

一錢百文 上下式人老泊り分

右ハ村々水損御見分之節、七月廿五日之晩同廿六日之朝迄、文言右同断

卯七月廿六日

前谷村宿
二郎左衛門
市 兵 衛
六 兵 衛

渡辺団右衛門殿

覚

一錢四拾八文 上下式人昼休

右同時七月廿六日昼休、文言右同断

卯七月廿六日

田中々村宿
才兵衛
与右衛門
勘右衛門

渡辺団右衛門殿

覚

一錢貳百文 上下式人式泊り分

右ハ当村塩浜并御見分之節、卯八月八日之晩同十日之朝迄、右

文言同断

卯八月十日

城村宿

二郎右衛門

藤 兵 衛

渡辺団右衛門殿

二郎兵衛

覚

一錢百文

上下式人壹泊り分

右城村の御帰りの節、八月十日晩の同十一日の朝迄、右文言同断

前谷村宿

二郎左衛門

卯八月十一日

市 兵 衛

渡辺団右衛門殿

六 兵 衛

覚

一錢百文

上下式人壹泊り分

右八堤縄張の節、八月十一日の晩の同十二日の朝迄、文言右同断

十楽村宿

与三右衛門

卯八月十二日

仁 兵 衛

渡辺団右衛門殿

清 介

右之通御雑用帳ニ印判仕、帳面舟寄村善右衛門方へ南正田村の村

次ニ而遣し候

同廿一日

同廿二日

同廿三日

一赤尾村伊右衛門、京都本願寺参仕候由断被申候

一十楽村御普請所改ニ参候、夫の三国へ参候

一権右衛門上方の罷歸り候

同廿四日

八月廿五日

同廿六日

一三国ニ而材木并風呂桶等、桶屋作兵衛ニあつらへ申候

一十楽村御普請見分仕候得共未成就無之候ニ付、早々相済申様ニと申渡し候

同廿七日

一去寅之納下り金不残取立早々御勘定仕候様ニと、藤助様の御廻状被遣候而有

同廿八日

一細呂木村太郎左衛門・西方寺村市郎兵衛出入之義、右両村庄屋長百姓立合噺せ可申候間、二三日之内何方迄成共御出候様ニと、指中村与頭彦三郎方へ書状青野木村の遣し申候得ハ、来三日・四日・五日右三ヶ日之内何日ニ而も此方へ申越次第、金津久右衛門方迄罷出可申と三上又兵衛返事被致候

同廿九日

九月朔日

同二日

同三日

同四日

一細呂木村太郎左衛門・西方寺村市郎兵衛出入之義ニ付、為噉と金津へ罷出候処、中村彦三郎并子息又兵衛・細呂木村五郎兵衛・藤右衛門・西方寺村十右衛門双方相手共罷出、太郎左衛門書付を以市郎兵衛方様子相尋候、則金津泊り候

同五日

一右出入段々両方共ニ相尋候得「」一埒明申義ニ而無之候ニ付、重而近村庄屋共呼出し噉可申由申合罷帰り候

一四寸釘五連

一三寸釘三連

一足式寸拾連

一なミ式寸拾連

一板付式拾連

一四拾八連

右之釘、福井木屋太郎兵衛方へ取寄候

同六日

同七日

同八日

一与下村々庄屋中呼寄、寅皆済状判形取申候、刁ノ年名寄帳・刁暮の卯夏諸遣帳早々出し候様ニと申付候、御口米舟賃証文判形取申

候

同九日

一御口米たちん・運賃請取証文、後山へ可指上由ニ而後山へ遣し申候

一四寸釘五連

一三寸釘五連

一足式寸拾連

一なミ式寸拾連

一壹寸五分四拾連

一八拾連

右之釘木屋太郎兵衛方へ誂申し候処、右之釘参候而請取申候

同十日

一村々御口米駄賃・運賃請取証文、後山へ人足ニ而鯖江へ指上候処、御請取被遊候之由藤介様御返事十一日ニ被遣候

一十楽村川除堤御普請所御見分として、十三日・十四日両村之内

团右衛門様御出被成、其節前谷村清左衛門新酒御改被遊候而、

酒桶ニ御封印可被成候由、御書付ニ而被仰越候、鯖江彦六使ニ

参候

右之通十楽村并清左衛門方へ申渡し候

同十一日

一当寅之宗旨御改寺判、後山ニ而明日之内ニ取申候

一藤介様へ寅納下り金拾式両式分銀七匁七分三厘有之由被仰越候

二付、相改候得共納下り無之候、御勘定帳を以段々上納金書付
目録藤介様指上候、青野木村人足ニ而遣し候、但清左衛門方酒
運上金ニ不足有之候哉と相尋候得共、義右衛門参候而何れも清
左衛門・伊兵衛共ニ宿ニ不罷有候、不足金之事不知由ニ而然と
様子不申聞候ニ付其段申上候

九月十二日

一 宗旨寺判今日切ニ而何れも後山を退出、判形相済不申候寺方ハ前
谷村ニ而判形取申候

同十三日

一 友左衛門様能州御越ニ付、金津迄罷出候へ共不得御意罷歸り候

同十四日

一 团右衛門様十楽村御普請所御見分被遊候處、布目境之道少ひきく
候間土盛候様ニと被仰付候、夫を前谷村清左衛門酒桶ニ封を御付
被成候

一 殿様御着近日ニ候間、十六日ニ罷出候様ニと被仰候、庄屋惣代と
して壹与る庄や式人ツ、御迎ニめしつれ罷出候様ニと被仰付候
ニ付、十楽村与三右衛門・田中々村才兵衛へ参候様ニと与三右衛
門ニ申付候

一 藤助様を被仰越候拾式両式分銀七匁□□三厘納下り之事、团右衛

門様へ申上候へハ伊兵衛ニ酒運上之事御尋被成候へハ、拾式両三
分銀四匁八分九厘不足有之由申二付、早々取立指上候様ニと被仰
付候

一 藤助様を昨日之御返事ニ、酒運上銀ニ右之通納下り候間、早々取
立指上候様ニと被仰越候

一 笹岡村御廻米代金預り申候証文之案紙被遣候
一 团右衛門様御歸り被遊候

同十五日

一 酒運上金不足之事伊兵衛□□渡し□□

同十六日

一 殿様明十七日ニ御着之由、鯖江彦五郎方を飛脚ニ而申越候ニ付、
鯖江へ参候

一 金三両銀拾四匁四分壹厘 十楽村御ふしん代銀
一 金壹分銀拾三匁式分壹厘 御口米たちん・運賃

×三両式分拾式匁六分式厘

右之金子藤助様請取、其外村々御ふしんふち代銀最前通ニ付被遣
候銀子共ニ米ニ而手形一所ニ判形仕指上候、村々へ相渡し請取証
文我等方へ請取置候様ニと被仰付候

一 一秋を同暮迄之村々諸遣帳十九冊、当卯宗門改帳十九冊共ニ木村
平八殿へ指上申候

一当夏笹岡村御廻米代ニ御貸被成候金子之仮り手形と本証文、引かへ指上申候

同十七日

一殿様今庄ニ御宿鯖江へ御着ニ付、何茂与頭中今宿迄罷出御目見得仕夫の御供仕御陣屋へ御入被遊候

一御廻米来辰春ハ跡々之通被仰付被下候様ニと、さいせん書付指上候ニ付、御役人様方被仰聞候ハ、御廻米之外之御米直段高直ニ仕上納可仕由申上、可然被仰聞候ニ付何も相談仕申上候ハ

覚

来辰之春御廻米御代官所の米三千石相納候様ニ被仰付可被下候、其外之御年貢米之分、所相場ニ壹石ニ付銀貳匁五分高二上納可仕候間、右之通被仰付可被下候、以上

卯九月

惣与頭共

右之通書付指上候処、此分斗ニ而ハ悪敷候間、大津廻ニ而ハ百姓迷惑之段江戸廻被仰付候様ニと、委書付指上候様ニと被仰付候付、何れも相談ニ而書付指上候、留書別紙ニ有

一前谷村清右衛門酒運上不足金之事、早々相済させ候様ニと藤介様の被仰越候ニ付、其段伊兵衛申付候処、金子調不申候間跡の鯖江へ持参仕相渡し可申由、一昨十五日ニ申ニ付、然ハ村通をも鯖江へ持参可仕候、金子請取通ニ付可申と申渡候処、金子直ニ指上候由ニ而、御手形も渡し不申村通も持参不申候

九月十八日

当卯年御検見御廻り村付

一南条郡之内千福村・妙法寺村・春日野村・●池上村・●下中津原村・●別所村・●中津原村・清水村・東谷村御泊り、火打村・●久喜村・●長沢村・●馬上免・●古木村・●温谷村・●小倉谷村・●瀬戸村・●柚木俣村・阿久和村・中小屋・金粕村・堂村・宮谷・上野村・牧谷村御泊り、鑄物師村・上平吹村・向新保村、今立郡之内西尾村・宮谷村・●上大坪・●野坪村・●文室村・中新庄村・下新庄村御泊、出口・木引村・町村・曲木村・舟枝村・橋立村・樋口村・●中野・松成村・花出村・原村・川嶋村・新堂村・庄境村・●高岡村・赤坂村・戸口下村・別司村・小坂村・西袋村・金谷村・寺中村・尾花村・河和田河内村・河内村・戸口中村御泊り、●水海村・●松ヶ谷村・●千代谷村・●五ヶ村新田・猪嶋村御泊り、下郷村・稲郷村・木本領家村・宝慶寺村・西山村・今井村・野中村・友兼村・開発村・森政地頭村・猪嶋又御泊り、北御門村・上麻生嶋村・森目村・大矢戸村・小矢戸村・西大月村・東大月村・下荒井村・嶗寄・大袋村・蓬生村・比嶋村御泊り、●杉俣村・●西光寺村・舟寄村御泊り、宮領村・田嶋村・河和田村・玄女村・里竹田村・南正田・川上・後山村御泊り、清滝村・鎌谷村・棚村・清間・●伊井村・西方寺村・青野木村・宮谷村・笹岡・前谷村御泊り、清王村・赤尾村・●牛山村・横垣村・井江葭村・●国影村・

重義村・番田・田中々村・十楽村・舟津村・城村・同新家・●西谷村・藤沢村・宮前村・谷畠・上新庄・徳分田村・大針村・舟寄村・北横地・中筋・鯖江へ御入、但村之上黒星ハ御見込之村、右之通書付指上候

同十九日

一 鯖江へ罷歸り候

一 笹岡村与三右衛門称運寺へ寄進山有之候処、今程ハ改宗仕寺へ参不申候ニ付、寄進山取返シ申ニ付迷惑仕候由、去々年極月ニ称運寺へ断被申ニ付、与三右衛門ニ様子相尋候処右之通申聞、此上ハ寄進山是非共返シ申間敷との事ニ候ハ、御公義へ可被申上候、其時罷出申訳可仕由与三右衛門申ニ付、其段称運寺方□申談候処、夫何之断もなく捨置候処、今日右之山ニ而与三右衛門木を切候ニ付称運寺罷出何角と被申、其内何れも寄合口論いたし、二郎大夫・伊兵衛兩人として与三右衛門を打擲仕候由断ニ参候、伊兵衛も与三右衛門打擲仕候□□断ニ参候得共、双方共疵付申事も無之少も痛申躰も無之候ニ付、我等も罷有不申候故双方共ニ返し申由

同廿日

一 笹岡村二郎太夫・伊兵衛・庄屋長百姓呼寄候而、山之事去々年一応称運寺断有之、其後何之沙汰不被申候処、今又何角と山ニ而口

論を被致候事不届、其上二郎大夫・伊兵衛罷出候而何角と申候事不届ニ候、とかく御役人様へ可申上候間罷歸候様ニと申渡し候

同廿一日

覚

一 銀三百三拾三匁七分六厘

此金五両式分銀三匁七分六厘

右者去寅御年貢米之内五千九百三拾石四斗当年大津相廻、五千七百九拾石壹斗三升七合五勺御蔵納、百四拾石式斗六升式合五勺欠立候、此分越前金納直段ニ式匁高壹石ニ付銀四拾七匁五分三厘之積りを以金納ニ被仰付候、右欠米代銀六貫六百六拾六匁六分八厘之内先割銀払、残三貫九百七拾匁五厘引之、残式貫六百九拾六匁六分三厘之分廻米高ニ割付候へハ、拾石ニ付銀四匁五分四厘七毛当り候、其方組下右書面之通ニ候、早々取立可被相渡候、以上

九月廿一日

渡辺団右衛門 印

青山 藤 助 印

前谷村組

二郎左衛門殿

右之御書付有

同廿二日

一 笹岡村与三右衛門義、二郎大夫・伊兵衛呼寄吟味仕候処、与三右

衛門二曾而手指不申候と堅申候、九兵衛□□与三右衛門殊之外痛
申二付、死可申も知不申候と申二付、人之命二候へハ難定事と乍
申、右之口論二付左様二候ハ、大切成事二候間、指紙を添可申候
間鯖江御注進可被申候、御注進も不申上自然之時何角と被申間敷
由慥二相断候得共、御注進可申とハ不申候而罷帰り候

一城村二郎右衛門二御検見之節御泊り之義申渡候

卯年大津御廻米欠米代銀割

一銀四匁

前谷村

此米八斗八斗^(マ、)

一銀四拾四匁式分

笹岡村

此米九拾七石式斗

一銀三拾四匁九分式厘

宮谷村

此米七拾六石八斗

一銀拾八匁六分式厘

青野木弥二兵衛

此米四拾石九斗四升七合

一銀九匁三分式厘

同五十郎

此米貳拾石四斗九升七合五勺

一銀六匁貳分五厘

同権兵衛

此米拾三石七斗五升五合五勺

一銀拾貳匁壹厘

清王村

此米貳拾六石四斗

一銀拾貳匁壹分九厘

赤尾村

此米貳拾六石八斗

一銀四匁九分壹厘

横垣村

此米拾石八斗

一銀四拾貳匁三分八厘

井江葭村

此米九拾三石式斗

一銀貳拾三匁貳分八厘

国かけ村

此米五拾壹石式斗

一銀拾匁壹分九厘

牛山村

此米貳拾貳石四斗

一銀四拾貳匁七分四厘

舟津村

此米九拾四石

一銀貳匁九分壹厘

西谷村

此米六石四斗

一銀拾七匁六分四厘

十楽村

此米三拾八石八斗

一銀拾八匁五分五厘

田中々村

此米四拾石八斗

一銀拾四匁壹厘

番田村

此米三拾石八斗

一銀拾四匁七分三厘

重義村

此米三拾貳石四斗

一銀九分壹厘 此米貳石

西方寺村

合銀三百三拾三匁七分六厘

此米七百三拾四石 拾石二付四匁五分四厘七毛

右之銀割違申由二候故不申渡候

九月廿三日

覚

一米百四拾石式斗六升式合五勺 欠米

此銀六貫六百六拾六匁六分八厘

但^{寅金納直段式匁高}
壹石二付四拾七匁五分三厘

内三貫九百四拾八匁五厘先割銀払□□

廻米高五千九百三拾石四斗

残式貫七百拾八匁六分三厘

但廻米拾石二付四匁五分八厘四毛余

此割

一銀三百三拾六匁四分八厘

前谷組

此金五両貳分銀六匁四分八厘

右者去寅御年貢米之内大津廻米納不足有之、此度金納二就被仰付候、先割銀廻米入用二相渡候殘金引之令割付候処、其組村々⁶可相納分如此二候間、早々取立可被相納候、以上

九月廿二日

渡辺団右衛門 印

杉山織右衛門 印

青山 藤助 印

与頭中

先日遣候書面相違二候間、此通村々割符可被申候、尤先達而遣候書付も重而可被相返候、旦那義廿六七日頃南条郡へ御出可被成と存候、兼而早々申越候様二との事二候故如此二候、以上

廿二日

団右衛門

織右衛門

右大津御廻米欠米代銀村々割付

一銀四匁三厘

前谷村

一銀四拾四匁五分六厘

笹岡村

一銀三拾五匁貳分壹厘

宮谷村

一銀拾八匁七分七厘

青野木弥二兵衛

一銀九匁四分

同五十郎

一銀六匁三分壹厘

同権兵衛

一銀九分貳厘

西方寺村

一銀拾貳匁壹分

清王村

一銀拾貳匁貳分九厘

赤尾村

一銀四匁九分五厘

横垣村

一銀四拾貳匁七分貳厘

井江葭村

一銀貳拾三匁四分七厘

国影村

一銀拾匁貳分七厘

牛山村

一銀四拾三匁九厘

舟津村

一銀貳匁九分三厘

西谷村

一銀拾七匁七分九厘

十楽村

一銀拾八匁七分

田中々村

一銀拾四匁壹分貳厘

番田村

一銀拾四匁八分五厘

重義村

合銀三百三拾六匁四分八厘

此金五両貳分銀六匁四分八厘

右之通村々へ割付申渡候、以上

九月廿五日

一來辰春御廻米訴訟之義ニ付、石田方与頭中存寄之事候間、罷出相談申様ニと石田被申越候ニ付、我等ふしん取懸り難参候間、善右衛門殿・平助殿御越被下候様ニと頼申遣し候

同廿六日

一右御廻米訴訟之相談ニ舟寄「」石田・鯖江参候而今日被帰候由、手紙ニ而被申越候

口上書

一当卯年権右与下村々小物成米銀ニ増減有之候ハ、書付指上候様

ニと就被仰付候、村々吟味仕候得共小物成ニ増減之義少も無御座、去寅年之通ニ御座候ニ付、口上書を以如此ニ御座候、以上

元禄拾貳年卯九月

前谷村与頭

(次郎)

□□左衛門 印

青山藤助殿

右之口上書後山を便り候而指上申候

一御札拾九包^(福井)福宝性院を預り申候、与下拾九ヶ村壹ヶ村へ壹包ツ、

寅年御初尾金壹分梅本院へ相渡し申候

同廿七日

一内検見ニ罷出笹岡村を城村迄参、殿様御泊り之段々申渡候

同廿八日

一酒造之義当卯年を來辰秋迄酒造高五ヶ壺申様ニと、造酒屋清左衛門ニ急度可申付由、団右衛門様を被仰越候、并酒屋証文之案紙被遣候、次ニ殿様廿七日ニ南条郡へ御出被遊候、御泊・御休共ニ酒肴調候義堅御法度之由御書付被遣候、則善右衛門・平助共ニ申合候様ニと被仰下候ニ付、右之御書付両人方へ遣し候

同廿九日

一村々内検見仕廻候而罷歸り候

同晦日

一折桶壹ツ・懸り桶貳ツ・たらい壹ツ・半盥壹ツ・手水桶壹ツ、物數六ツ、此代銀貳拾九匁三分、三国桶屋作兵衛方ニ而詔候而、十楽村人足貳人取寄申候、右之代銀者十楽村与三右衛門取かへ

一十楽村御ふしん人足ふち米代金三両壹分、今日与三右衛門ニ相渡

し仮り手形取^(置)□候

閏九月朔日

一当御検見人馬之義、舟寄^を鳴鹿迄御迎、後山^を舟寄迄御迎、後山^を前谷迄御送り、前谷^を城迄自分組^を御送り、城村^を舟寄迄自分組^を御送り、舟寄^を鯖江迄舟寄組^を御送り、如此二候

九月二日

一殿様城村御泊り二相極申二付、御□□之支度諸事立合人井江葭村義右衛門・国影村次左衛門・舟津村清右衛門・十楽村与三右衛門此四人二申渡し候、諸色かい物代銀として金壹両右四人へ相渡し申候

同三日

同四日

一殿様明五日二比嶋村^を舟寄へ御移り被遊候二付、御昼升当舟寄^を鳴鹿迄持参申由、善右衛門方^を申越候
一馬七疋 内式疋かい□馬、五疋荷馬
一人足拾人 御通り入用之由申越候

同五日

一黒毛馬壹疋 式歳髪切 ^{番田村} 兵右衛門

板取口通手形判形いたし候、但九月八日之日付二而出し候

一前谷村武右衛門福居かい物二遣し申候、代金壹両相渡し申候、此外二金壹分掛物表具代二遣し申候

同六日

一殿様後山村二御泊り被遊候

同七日

一殿様御泊り、御役人团右衛門様、斎藤久野右衛門様、御家来拾人、御かこの者四人、メ拾八人前谷村御泊り、御旅籠木錢七百四拾八文、三拾六文わらんち代□、メ七百八拾四文被下候を請取申候、其外入用無之村中割懸申間敷由判形仕候

同八日

一殿様御出立遊^(被脱)、井江葭・横垣・重義・番田村・田中々村・十楽・舟津・城村次郎右衛門方二御泊、但清王・赤尾・牛山・国影御見込二被遊候
一田中々村才兵衛方二而御昼休、御旅籠代錢三百文被下候を請取申候

一十楽村当夏被仰付候御普請所御改之処、布目境水囲之堤普請之義、堤根本□^(之)土取盛土二仕候二付、殊之外御詮義被遊候二□、今明日之内二取候根本之土を埋可申由、口上書十楽村^を指出候二付、其

段団右衛門様迄御詫言申上候、尤口上書我等方ニ有

同九日

一城村ニ而御旅籠木錢七百四拾八文、わらぢ代三拾六文、七百八拾四文被下候を請取候、右三口之錢壹貫八百七拾弍文之代金弍分、但壹分九百三拾六文宛、右代金我等方へ預り置候、銘々御宿共判形指上候

一城村御出立被遊、安嶋通三国川^(口カ)御覽被遊、境屋甚右衛門方ニ而御昼休、夫^レ舟寄善右衛門方ニ御泊り被遊候

一十楽村御普請所昨・今兩日之内ニ堅固ニ仕候ニ付、詫申上候へハ被聞召上御免被遊候

同十日

一殿様舟寄村^ハ鯖江へ御入被遊候

一渡辺団右衛門様・斎藤久野右衛門様小検見ニ御廻り被遊候村付、

谷畠・宮前・藤沢・十楽村御泊り、田中々村・番田・重義・横垣・

井江菟・牛山・国影・西谷・舟津御泊り、赤尾・清王村・西方寺・

青野木・宮谷・笹岡・前谷村御泊り、清間・伊井・櫛・鎌谷・清

滝・後山御泊り、川上・南正田・里竹田・玄女・御油田村御泊り、

河和田・田嶋・宮領・上新庄・徳分田御泊り、大針・中筋・北横

地・舟寄村御泊り、右之通書上申候

一寅御年貢米之内、卯ノ春大津御廻米諸入用指引勘定帳被遣候ニ付

写取申候

一団右衛門様・久野右衛門様十楽村ニ御泊り、旅籠木錢として錢弍百文請取申候て、庄屋長百姓手形指上候

閏九月十一日

一右御兩人様重義村ニ而御昼休錢百文請取申由、庄屋長百姓手形指上候

一右御兩人様井江菟村御泊り、錢弍百文右同断

同十二日

一右御兩人様西谷村ニ而御昼休、錢百文右同断

一右御兩人様舟津村御泊り、錢弍百文右同断

一舟津村二年々荒地所々ニ有之ニ付御訴訟申上候へハ、荒地反歩持主書付指上候様ニと被仰付候

同十三日

一右御兩人様宮谷村御昼休、錢百文右同断

一右御兩人様前谷村御泊り、錢弍百文右同断

一与下村々庄屋長百姓被召寄、御検見之段々証文御取被成候、但番田・重義・国影・舟津此四ヶ村無毛有之ニ付、帳面指上候ニ付別紙証文被仰付候、十楽・田中々村畑方水損無毛之由帳面指上候得共、御請取無之分ニ候得共帳面ハ指上候

一 村々水帳并内検帳之寄写御取被成候

付四ヶ匁之当り

同十四日

一 右御兩人様後山組御越被成、後山ニ御泊

一金三両
 前谷村
 一金拾八両壹分
 笹岡村
 一金拾四両壹分
 宮谷村
 一金拾五両三分
 青野木村

同十五日

同十六日

一 右御兩人様舟寄ニ御泊り、御用候而今日舟寄へ被召寄候ニ付舟寄へ参候へハ、当検見ニ付村々当作之義其外段々「」申上候

内八両三分
 四両壹分
 式両三分
 弥次兵衛
 五十郎
 権兵衛

一金壹両
 西方寺村

一金五両
 清王村

一金六両三分
 赤尾村

同十七日

一金三両
 横垣村

一 舟寄村へ右御泊雜用代錢貳百文、宮谷昼休錢百文、前谷村御泊錢

貳百文、合五百文、舟寄・後山三与之分壱所ニ金子ニ而御渡し被

成候ニ付、舟寄善右衛門方へ請取預り置被申候

一 舟津村荒地反歩御改ニ御越被成、段々帳面証文御取被成候、留有

一年五十歳女壱人
西谷村
 権八母
 新家

一年三十歳女壱人
 同人下女
 西谷村

メ 貳人
 舟津村

右之女加州山中湯治仕候ニ付、細呂木口通手形ニ奥判仕指上候

一 当卯御年貢初納金、高百石二三両宛之積取立指上候様ニと被仰付

候得共、当年之事ニ候へハ色々御断申上候へハ、去寅惣金高四ヶ

壱早々取立指上候様ニと、团右衛門様・久野右衛門様被仰付候ニ

一金拾四両三分
 田中々村
 一金拾壹両貳分
 番田村
 一金拾壹両貳分
 重義村

都合金百八拾兩

閏九月十八日

一坂井郡小検見御仕廻被成、右御兩人様今日鯖江へ御帰り被成候

同十九日

同廿日

一村々々新納金請取申候、右新納金高村々へ申付候

一御廻米御訴訟之義、石田方と鯖江方願之品少申候段々村々庄屋中へ申聞候

同廿一日

同廿二日

一此度御検見之御札旁々二国影新右衛門・舟津村孫右衛門兩人召連鯖江へ参候、但此兩人ハ当年々庄屋番二候故兩様二召連参候、舟寄・後山も庄屋式三人ツ、召連参候

一金百八兩当卯初納金藤介様□指上候而小手形請取候、包賃ハ相済不申候

同廿三日

一殿様御前へ善右衛門・平助・自分三人被召出、来卯春御廻米減少之願状指上候処、石田方之願とハ相違有之二付、相談いたし一致

二仕候様二と被仰候二付、我々義ハ最前願状指上候趣百姓共二申聞候へハ、何とそ相叶候様二と願申候事二候へハ、石田方二如何様之相談御座候共私共相替義無御座候と申上、其外当作悪數弥百姓困窮と罷成候間御救被下様二と申上、御暇被下罷立候

一金百拾九兩壹分持参仕、百八兩上、納三兩払、三分払、二分払、残而七兩有

一鯖江へ罷出福居吉兵衛方二泊

同廿四日

一福居へ罷帰り候

同廿五日

一廻米減願之義二付相尋義有之候間、明日可被罷越候、以上

卯閏九月廿四日 青山藤介

前谷村与頭二郎左衛門殿

一右之通御書付被遣候二付、鯖江へ参团右衛門様へ罷出候へハ被仰聞候、昨日源兵衛様鯖江へ御越被遊、御廻米減少願之義石田御下ハ三匁高金納願之義不同心二候、就夫鯖江御下之与頭共も三匁高金納之願之義、今程ハ後悔之由二石田与頭共申上候由、源兵衛様□物語被遊候二付、若後悔之存知も有之候ハ、其段可申上候、願状御返し可被遊候間いか様共願上ケ候様二と被仰聞候二付、後悔

之義不仕候由段々申上候へハ口上書指上申候、尤留書有

一旦那御事来月四日・五日両日之内御発足等二候、就夫当卯御年

貢金高百石二付三両之積り取立、来月朔日迄二相納可被申候、

江戸御蔵へ致上納候員数極候へハ不足難成候間、其心得可有候、

且又大津廻米欠米代金早々可被指越候

閏九月廿六日

青山藤介印

二郎左衛門殿

善右衛門殿

平介殿

右之御廻状鯖江ニ而請取候二付、青野木孫四郎言伝善右衛門方へ
遣し候

一 黒毛式才馬壺正 髪切 馬主弥次兵衛
青野木村

加州へ参候二付細呂木口通手形奥判いたし指上候

同廿六日

一 最前舟津村水帳、団右衛門様御改可被成由御預り被成候を、我等
方迄御返し被成候二付請取申候、舟津村へ水帳御預り之由手形被
遣候二付、引かへ候而手形之奥ニ水帳請取判為致、指上候様ニと
被仰付候

一 御用仕廻候而鯖江を罷歸り候、舟二而三国へ参候、金五両式分当
夏口入いたし候大豆代金、境屋甚右衛門へ可相渡、我等手形と引
かへ可申処、甚右衛門金津へ被参候而留主^(守)二候故、右之金子甚右

衛門内室へ預け置候

閏九月廿七日

同廿八日

一 今日罷歸り候

同廿九日

一 御金今日請取候

十月朔日

一 前谷村武右衛門ニ金七拾貳両為持、鯖江へ遣し申候

一 舟津村水帳先月廿八日ニ相渡、団右衛門様御手形今日取返し申候

一金八両 笹岡宗左衛門を請取

内三両壺分 御廻米代金之内二取

残四両三分

内壺両三分四匁五分 大豆代二取

貳分拾四匁五分六厘 御廻米欠米代

貳両貳匁五分七厘 わり銀

残八匁三分七厘 つり二而返ス

同二日

一金四両貳分 青野木村弥次兵衛 遣長右衛門

内三両	御年貢金手形渡	一金四両壹分	同村権兵衛
壹分三匁七分七厘	御廻米欠米代	一金七両三分	清王村
壹両七匁七分七厘		一金三分	西方寺村
残三匁四分六厘	つり錢返ス	一金八両三分	赤尾村
一金壹両	牛山村 遣彦左衛門	一金三両貳分	横垣村
拾匁貳分七厘	御廻米欠米代	一金貳拾七両三分	井江葭村
内		一金拾五両壹分	国かけ村
四拾六匁七分八厘		一金七両壹分	牛山村
残貳匁九分五厘	つり錢返ス	一金貳拾八両	舟津村
一金貳分半切銀五匁貳分七厘	青野木三兵衛 遣十楽吉十郎	一金三両壹分	城村
三拾三匁九分三厘	わり銀二入	一金三匁	同新家
内		一金三匁	西谷村
八匁八分四厘	御廻米欠米代銀二入	一金拾五両壹分	十楽村
外五分六厘	欠米代銀不足	一金拾六両三分	田中々村
一金三両	舟津村 遣又三郎	一金拾貳両三分	番田村
内		一金拾三両壹分	重義村
百三拾九匁六分八厘	わり銀二入	合金貳百四拾両貳分	
四拾匁三分貳厘	御廻米欠米代之内二入		
外貳匁七分七厘	不足		
卯御年貢金之内初納金之割			
一金三両壹分	前谷村	右卯御年貢初納金、村々去寅年初納金之通取立候様ニと被仰付候	
一金貳拾八両貳分	笹岡村	ニ付如此二候、但高百石二金三両宛本途・夫米「」割付如此	
一金貳拾貳両壹分	宮谷村	二候	
一金拾貳両貳分	青野木弥次兵衛		
一金六両壹分	同村三兵衛		
		同三日	

一金八拾九兩三分半切錢丁壹貫廿文、鯖江へ参候

内

拾七兩

わり金

五兩貳分半切

欠米代

拾貳兩三分半

自分

五拾四兩貳分

御年貢金

内壹兩

惣金包賃ニ掛屋仁兵衛へ渡

ノ

一金七拾壹兩 卯十月朔日上納手形壹(枚力)

一金五拾九兩貳朱 同四日上納金

ノ百三拾兩貳朱

内

六拾七兩 笹岡村御廻米代金ニ我等預り候金子返納、我等指上

候預り手形ニ右之金子返納仕候由奥判仕指上候

五拾七兩貳分 卯御年貢手形請取

五兩貳分銀六匁四分八厘 大津廻米欠米代

ノ百三拾兩銀六匁四分八厘

残

銀壹匁貳厘

外 銀拾貳匁貳分五厘 寅御年貢上納手形之内、過銀有之ニ付請取候

ノ拾三匁貳分七厘

此金壹分請取、壹匁七分三厘つり返ス

右之通指引御算用被遊、過銀御返し被成候付請取申候、通帳之内

ニ清左衛門酒運上金も御書付御渡被成候、但御手形清左衛門方ニ有之候を、重而指上させ候様ニと被仰付候

同五日

一越前・能州共ニ与頭共不殘御前へ被召出候而被仰聞候ハ、当国取ケ之義年々下り候得共、当立毛惡敷候ニ付御取ケ御引下被下候義ハ、縦村之内ニ少々飢人有之候共、何とそ其村其組として救候而、夫食・作食願上申間敷候、夫食・作食之願ハ叶不申候、組下之内諸百姓之内ニ家業など不情ニ仕者有之候ハ、急度詮義可仕候、左様之者ニハ御取ケ何程御用捨候共成立申間敷候、左様之者を其通ニいたし置候ハ、品ニ与頭共不届ニ可被思召候由、段々被仰聞当免状被下候ニ付、宿々へ罷帰拜見仕候而、夫御役人様方へ御礼ニ罷出、自分義ハ笹岡村御取ケ之義、舟津村御引高之義訳而御礼申上候

一笹岡村市右衛門江戸へ欠落仕候ニ付、同村宇右衛門を呼ニ遣し申ニ付、宇右衛門義殿様御挾箱を持御供仕候ニ付、市右衛門義去暮欠落仕候ニ付ケ様ニ呼ニ遣し申候共、何角と申不参候ハ、江戸ニ而被仰付被下候様ニと、右之段々書付指上候へハ因右衛門様被仰渡候上ハ、右ハ市右衛門江戸へ罷帰間敷と申候共、江戸ニ而市右衛門於被仰付ニハ江戸御勘定所へ被仰上、夫御町奉行へ被仰付宿主ニ被仰付事ニ候、然ハ殊之外之御苦勞ニ候間、歸り申間敷と申候ハ、高山共ニ村支配ニ仕、市右衛門義再笹岡村へ立歸り申

事成間敷由二慥二届候而可罷帰候、其上ハ様子段々御詮義之上村
へ可被仰付候、とかく江戸之事ハ、御供ニ而御下り被成候織右衛
門様へ可申上候由被仰聞候

一割金三人共ニ割之通出し合、此度御見送りニ参候庄屋立合包わけ
申候、自分与下之内ニ而笹岡村宗左衛門・宮谷義太夫・井江葭義

右衛門・城村二郎右衛門御見送りニ参候

一右之金子藤介様十、团右衛門様・織右衛門様・友左衛門様三人八、

元右衛門様・園右衛門様・久野右衛門様へ五、平八殿壹、小者中

江小壹、左介へ小貳、六介小貳

一織右衛門様江戸へ御供ニ付御暇乞申上候

一南条郡牧谷組团右衛門様御支配

一今立郡下新庄組御陣屋付友左衛門様

一同郡戸口組元右衛門様

一大野郡猪嶋組園右衛門様

一坂井郡後山組久野右衛門様

一同郡前谷組・舟寄組・能州織右衛門様

右之通卯年御支配被仰付候

同六日

一殿様江戸へ御発駕被遊候、坂井郡惣代拾五人之庄屋并舟寄宗右衛
門・前谷権右衛門鯖江台ニ而御暇乞申上、与頭共ハ不残松森ニ而
御暇乞申上候、織右衛門様ハ江戸迄御供、团右衛門様ハ今庄迄御

見送りニ候

卯年御成ケ之覚

一六分五厘	去免三分五厘下	前谷村
一九分五厘	同壹ツ五分貳厘下	笹岡村
一貳ツ五厘	同四分八厘	宮谷村
一壹ツ五分貳厘	同三分六厘	青野木村
一三分	同貳分八厘	西方寺村
一貳ツ五厘	同三分七厘	清王村
一壹ツ五厘	同三分八厘	赤尾村
一壹ツ	同三分五厘	横垣村
一壹ツ七分	同三分五厘	井江葭村
一壹ツ五分五厘	同四分八厘三毛	国影村
一壹ツ壹分五厘	同三分五厘	牛山村
一八分	同四分	城村
一四分	同壹分	新家
一貳分五厘	同貳分五厘	西谷村
一壹ツ六分九毛	同四分八厘七毛	舟津村
一三分八厘三毛	同四分壹厘七毛	十楽村
一四分三厘貳毛	同貳分六厘八毛	田中々村
一三分五厘四毛	同三分三厘四毛	番田村
一三分六厘三毛	同三分六厘七毛	重義村
平均壹ツ壹毛三弗	四分六厘四毛五弗去免二下り	

十月七日

一与頭共不残於御陣屋ニ御料理被下置候、并横越村助右衛門一所ニ御振舞被下候

卯十月五日

中野元右衛門 印
尾花園右衛門 印
渡辺団右衛門 印
青山藤介 印

同八日

覚

一高六百式拾式石八斗三升

笹岡村

内壺斗六升

郷蔵敷

残六百式拾式石六斗七升

此取五拾九石壺斗五升四合

此取

高拾七石式斗七升八合八勺

入作

此取三石五斗四升式合

式ツ五厘

高五百三拾五石四斗六勺

火事人

此取四拾四石式斗七升四合八分式厘七毛

高五拾九石九斗九升六勺

火事不逢分

此取拾壺石三斗三升八合 壺ツ六分式厘

右者笹岡村当卯夏高持百姓三拾壺軒火事ニ逢、諸道具并雜穀種物

等迄悉令焼亡、其上当作毛火事人之分別而不宜候ニ付、吟味之上

当御成ケ右書面之通相究候間、庄屋百姓立合無相違致免割、御年

貢相納候様ニ可被申渡候、此書付重而可被相返候、以上

前谷村与頭二郎左衛門殿

右之御書付被遣候得共、若高二違有之候ハ、□□御定之免ニ而、御取ケ付仕直シ申様ニと被仰付候

一去寅御年貢・小物成等指引御算用仕皆済状請取、上納金帳手形不残团右衛門様へ指上引かへ相済申候、其外御札等申上罷歸り候

一宮谷村かり金証文、团右衛門様御裏判申請候而義太夫ニ相渡し候

十月九日

一三国へ御用候而鯖江を直ニ三国へ参候

同十日

一三国境屋甚右衛門を預り候大豆代金、最前相済候得共手形取返し不申候ニ付、今日我等手形取返し消申候

同十一日

同十二日

同十三日

一銀三拾九匁六分壺厘 笹岡村御普請扶持代

内三拾八匁八分三厘 刁御年貢金不足二入
残七分八厘 過銀二而預り

一銀八拾六匁壹分三厘 舟津村清右衛門刁御年貢不足

一銀三拾匁 同人割銀・与頭給不足

一銀四分三厘 同人包賃不足

一銀貳拾六匁六分五厘 同村徳兵衛刁御年貢不足

一銀百貳匁七厘 同人割銀・与頭給不足

一銀壹分三厘 同人包ちん不足

一銀百四拾五匁四分壹厘

内

百貳拾壹匁五分七厘 卯夏御ふしん扶持代二次

五拾五匁五分六厘 卯七月十一日徳兵衛入小手形有

三拾五匁七分四厘 同日清右衛門入小手形有

小以銀貳百拾貳匁八分貳厘

残
三拾貳匁五分九厘 不足銀有

外
銀貳匁七分七厘 御廻米欠米代銀之内不足

一銀三拾五匁三分六厘

一銀貳拾三匁三厘

西谷村刁御年貢不足銀請取皆済相渡ス

番田村卯夏御ふしんふち代銀

内四拾五匁 刁御年貢不足二次皆済状渡ス

残
六匁貳分貳厘 預り置申候

一銀五拾八匁五厘 城村卯夏御ふしんふち預り有

一銀八匁五分四厘 同新家右同断

一 村々庄屋長百姓中立合、去寅御年貢其外小物成算用いたし、皆済状相渡し相済申候

一 当卯御免状相渡申候、并最前被仰渡候通村々之内ニ身持悪敷者有之候ハ、吟味之上可申上由申渡候、左様之者無之候ハ、重而証文可被仰付候間、村々之内急度吟味候様ニと申渡し候

十月十四日

一 笹岡村へ参惣百姓不残呼寄、当御取ケ之訳段々申聞、庄屋長百姓・五人頭之証文取申候、則御免状相渡し候

一 横垣村門三郎と申者之妻・同人兄宗右衛門兩人参申聞候ハ、夫門三郎ハ当八月十五日ニ江戸ニ而相果候、門三郎買置候井江葭村之畑壹ヶ所、門三郎弟長太夫ニ預ヶ置候処、其下シ年貢米長太夫押取申由、并門三郎七年以前ニ交り候頼母子講、十壹番目ニ取可申定ニ而かけ銀入置候処、是も長太夫押取可申由申懸候由訴訟ニ参候得共、庄や次右衛門召連参候様ニと申渡し返し候

一 友左衛門様国絵図之義ニ付、往還之道筋福居領御立合ニ而御改ニ付、壹本松近所赤尾村地内ニ候故、御立合ニ而明十五日ニ壹本松迄御出被成候ニ付、我等ニも金津迄罷出候様ニと御書付被

遣候、御泊り人馬之義、我等御意候節御相談之上二而御極可被遊由二候、御書付有

覚

一高六百貳拾貳石八斗三升 笹岡村

内壺斗六升 郷藏敷

残六百貳拾貳石六斗七升

此取五拾九石壺斗五升四合

此取

高拾七石貳斗七升八合五勺 入作式人分

此取三石五斗四升貳合 式ツ五厘

高五拾六石九斗三升七合 火事不逢ス

此取九石貳斗貳升四合 壺ツ六分式厘四人分

高五百四拾八石六斗壺升四合五勺 火事人三拾壺人分

此取四拾六石三斗八升八合八分四厘五毛余

右笹岡村当卯之御取ケ段々御書付被遣候得共、村之内面々持高相改候へハ相違之事有之二付、右之通庄屋長百姓・五人頭・他村入作人之証文取置、則右之通藤介様へ書付指上候、右藤介様被遣候御書付ハ返し申候

十月十五日

一友左衛門様・浅右衛門様・武兵衛・自分共二十楽村を罷出、細呂木壺里塚二而喜左衛門様と御対談被成候処、御料・私領・他領之無構往還道法町間を打立罷通候間、為其御出と申入候間、御勝手

所二泊り申候

一団右衛門様・園右衛門様今日大野郡御普請所御見分二御出被成候、夫ハ坂井郡へ御越可被成由、御普請所願候所村々ハ書付を取、廿日迄之内二舟寄村迄書付出し置候様ニと御書付被遣候二付請取申候、則村々御普請願有之候ハ、書付持参申様ニとはいふ遣し申候

一横垣門三郎女、次右衛門取次二而参候二付、重而長太夫呼寄様子聞可申由申渡し候

同十六日

一友左衛門様・平介・自分共二金津ハ罷出、壺本松茶屋宗石方へ参候へハ、石田中川浅右衛門殿・兵庫武兵衛も御出候而茶屋二而対談之処、仙石喜左衛門様細呂木二御泊り被成候而、今日ハ雨天二候へハ改二罷出不申候由、御手代衆を以被仰越候二付、此方何れも十楽村三兵衛方二泊り申候、平助ハ罷歸り候

一笹岡村免割御書付被遣候得共高二相違有之二付、右之通御取ケ割書付、御書付共二友左衛門様二言伝指上候

十月十七日

一友左衛門様・浅右衛門様・武兵衛・自分共二十楽村を罷出、細呂木壺里塚二而喜左衛門様と御対談被成候処、御料・私領・他領之無構往還道法町間を打立罷通候間、為其御出と申入候間、御勝手

次第二被成候様ニと喜左衛門様御申二付、夫何れも御帰り候而
壹本松ニ而御昼休被成、友左衛門様ハ舟寄へ御越被成候而、御両
方御昼休ハ赤尾村へ仕出し申候、人足ハ横垣へ壹人、井江霞四人、
国かけ貳人、赤尾四人、清王三人遣申候

一自分義ハ城村参候而、新家へ城村へ相渡し候拾貳匁之山手銀之事、
両村証文取替シ相済申候、尤証文之留有、右拾貳匁之銀子と申義
ハ、先年へ城村山手銀之内新家へ拾貳匁宛与内来り候処、新家ニ
山無之候所ニ山手銀と申請取候へハ、以後出入可成事ニ候へハ、
山手銀と名付取申事成間敷由城村へ申二付、以後出入無之様ニ証
文取替相済申候

同十八日

一西谷村太郎右衛門・伝兵衛借銀出入之事、当春へ村中噺候得共相
済不申候由断申二付而、西谷へ参様子承候処、太郎右衛門方ニ慥
成証文無之、伝兵衛ハかり申分ハ相済申二付、其外かり銀無之由
申二付扱ニも成不申候処、出入ニ可仕との事ニ候ハ、書付を以可
申上候、取次可申由申渡し候

同十九日

同廿日

一其組村々当卯御年貢初納金不足早々可被相納候、江戸御金藏納
金高不足ニ付、此筋村々ハ初納金取立埒明、其外ニ貳番割申付

取立候、其元筋遠方ニ付貳番割不申遣候間、其心得を以先初納
不足金早々可被指越候、以上

卯十月十九日

斎藤久野右衛門 印

青 山 藤 介 印

与頭中

右之外当夫米代・小物成金早々相済、本途之義ハ郷藏納候様ニと
御書付被遣候ニ付請取候

同廿一日

一右本途米郷藏雨漏繕出来不申候内ハ、百姓自分藏へ相納候様ニと
重而御書付被遣候ニ付、写置申候

同廿二日

一団右衛門様・園右衛門様、御普請所御見分ニ明廿四日御越可被遊
由被仰越候得共、廿四日ニ与中御用ニ呼寄申二付御断申上候

同廿三日

同廿四日

一金壹兩半切銀貳匁六分六厘 赤尾村へ入

内五拾七匁八分七厘 わり銀

拾貳匁八分九厘 欠米代二入

一金壹兩 金津村清右衛門へうけ取

内三拾貳匁五分九厘 夏取立之不足二入

貳匁七分七厘 欠米代不足二入

貳匁壹分四厘 右之利足二入

残貳拾貳匁五分 金子清右衛門ニ返ス

一金壹両 番田村の大豆三表代六拾五匁七分之内拾五匁十月朔

日二入、六匁貳分貳厘ハ夏さん用過ニ而入、四拾四匁四分八厘
今日請取、右壹両之内拾五匁五分貳厘つりニ而返ス

一当卯年夫米代・小物成銀飯直段壹石ニ付金壹両之積りを以、日請
合申渡し候

一同御年貢米郷藏へ納申ニ付段々申渡し候、但郷藏雨もり等不仕候
様ニつくりひ申様ニと申渡し候、其上御書付ニ村之庄屋長百姓判
形取申候

一横垣村門三郎妻出入之事、長太夫ニ異見申聞曖相済申度由庄屋二
郎兵衛申ニ付、何様ニも曖相済申様ニと申渡し候

一銀六分 十楽村迄日用

一銀七分五厘 城村迄右同断

一銀壹匁三分 十楽村迄夜通貳人日用

一銀三匁六分 十楽村迄馬貳疋御立見時

一銀壹匁四分 同断人足貳人

一銀七分 番田村迄御状持

メ八匁三分五厘

右三国境屋甚右衛門書出し、与わりニ可仕分

十月廿五日

一笹岡村市右衛門江戸を当十八日ニ罷帰候由ニ而、庄屋宗左衛門召
連参候ニ付、去年の権瀬二郎左衛門相断申段々申聞、二郎左衛門
方金子預り置候ハ、埒明申様ニと申聞候へハ、尤かり金ハ壹両
三分有之候得共、米代金とて少も預り不申候と申ニ付、其義ハ分
明ニ不存候、併二郎左衛門方御公義迄申上候ニ付、江戸迄呼ニ
遣し候得共使字右衛門ニ逢不申由ニ候、二郎左衛門方ニも慥成証
拠有之由ニ候へハ、大切成論ニ候間能々思案仕可申候、扱宗左衛
門義ハ市右衛門召連候て二郎左衛門方へ参、市右衛門を二郎左衛
門ニ引渡し可申と申渡し候

同廿六日

一団右衛門様・園右衛門様村々御普請所御見分ニ御越被成、今日ハ
後山ニ御泊り、明廿七日ハ我等与下御見分可被遊由被仰越候、以
上

同廿七日

一右御兩人様後山を御出被成、御兩人様両方へ御別被成候而村々御
見分被成候、園右衛門様御廻り之村々ハ笹岡村川除之所々、宮谷
村川除伏樋、清王村伏樋、舟津村水囲、西谷村溜池堤上置伏樋御
見分被成候、団右衛門様御廻り之村々重義村ハ十楽村迄金津川筋

川除之所々、番田村水囲、田中々村水囲水門御見分被成候

同廿八日

同廿九日

同晦日

十一月朔日

一当五日鯖江大割ニ罷出候様ニと新庄平左衛門方々書状遣し申候

一西谷村太郎右衛門書付指上候得共、織右衛門様江戸へ御帰りなく

候ニ付、相待候様ニと申付候

一田中々村へ弥水囲之御普請所之義段々願上被申候

同二日

一西谷村五郎右衛門・太郎右衛門出入之事曖申度由申候ニ付、何様

ニも曖申様ニと申渡し候

一横垣村惣右衛門・同人妹いわ、長太夫と出入之義ニ付参候、頼母

子講銀之事ハ惣取銀之内ニ而門三郎借銀を相済、残銀ハ長太夫・

いわ式ッ割ニ而取可申事、右門三郎買畑之事、いわ一代夫を持不

申養子ニ而も仕、門三郎跡立可申との証文仕、若夫持申候ハ、右

畑長太夫返シ可申定ニ而、長太夫方ニ本証文預り置、小家をも仕

定之通いわ一代嬢過仕候ハ、右畑買証文いわニ相渡可申との定

ニ而、証文取替相済可申との事ニ候ハ、曖を可申由申渡し候へハ、

長太夫納得ニ候ハ、右之通ニ而相済可申由右兩人申候

一金壹両三分

笹岡村

一金拾六両式分

青野木村弥次兵衛

内四両

閏九月廿日入

五両式分

同廿九日入

三両

十月二日入

四両

十一月二日入

一金貳両

十月一日入

清王村権兵衛

一金五両三分

同村九右衛門

内三両

閏九月廿日入

貳両三分

十月一日入

一金九両

城村

内壹両

卯春御普請扶持壹匁九分五厘不足錢取

貳両

閏九月廿日入

貳両

同廿九日入

四両

同十一月二日入

一金壹両

新家

内三分

閏九月廿九日入

壹分

十一月二日入

一金拾九両壹分

国影村

内拾両壹分

閏九月廿日入

五両

同廿九日入

四両

十一月二日入

一金貳拾四両

宮谷村

内五両

閏九月廿日入

拾貳両壹分

同廿九日入

五両

十月二日入

壹両三分

十一月二日入

一金九両壹分

青野木村三兵衛

内六両壹分

閏九月廿九日入

三両

十一月二日

一金六両壹分

同村権兵衛

内貳両

閏九月廿日入

貳両壹分

十月一日入

貳両

十一月二日入

一金貳両

西方寺村

内三分

閏九月廿九日入

壹両壹分

十一月二日入

一金拾三両壹分

赤尾村

内八両三分

閏九月廿日入

四両貳分

十一月二日入

一金六両貳分

横垣村

内三両

閏九月廿日入

貳分

同廿九日入

三両

十一月二日入

一金三拾五両三分

井江葭村

内拾八両貳分

閏九月廿日入

九両壹分

同廿九日入

八両

十一月二日入

一金五両貳分

牛山次郎右衛門

内貳両三分

閏九月廿日入

三分

同廿日入

貳両

十一月二日入

一金五両三分

同村次兵衛

内貳両三分

閏九月廿日入

壹両

同廿日入

貳両

十一月二日入

一金貳拾両

舟津村孫右衛門

内九両

閏九月廿日入

八両

十月一日入

三両

同廿五日入

一金八両三分

同村清右衛門

内壹両壹分

閏九月廿日入

七両貳分

十月一日入

一金五両壹分

西谷村

内三両

閏九月廿日入

貳両壹分

十一月二日入

一金貳拾四兩壹分	十楽村
内七兩	閏九月廿日入
八兩	同廿九日入
壹分	十月二日入
九兩	十一月二日入
一金貳拾壹兩壹分	田中々村才兵衛
内九兩	閏九月廿日入
壹兩壹分	同廿九日入
拾壹兩	十一月二日入
一金拾兩貳分	同村宇右衛門
内四兩壹分	閏九月廿日入
貳兩壹分	同廿九日
四兩	十一月廿日
一金拾八兩三分	番田村
内九兩貳分	閏九月廿日入
三兩壹分	同廿九日
六兩	十一月二日入
一金拾兩	重義村五右衛門
内四兩	閏九月廿日入
貳兩	同廿九日入
四兩	十一月二日入
一金拾貳兩貳分	同村加右衛門

内七兩	閏九月廿日入
壹分	同廿九日
五兩壹分	
一金六兩貳分	前谷村
内貳兩壹分	閏九月廿日入
四兩壹分	十一月二日
都合金三百壹兩壹分	
一金壹兩	閏九月廿日
一金拾六兩	同廿九日
一金三兩壹分	十月一日
同村	
一金八兩	同二日
同村	
一金拾七兩銀八匁壹分	十一月二日同村
一金五兩貳分銀六匁	質糶貳拾八表 代壹表拾貳匁ツ、
一金拾兩銀八匁四分	質米貳拾六表 代壹表貳拾三匁四分
一金八兩	高山質二而貸
✂金六拾九兩銀七匁五分	
内	
壹兩三分	卯御年貢金仮通二付
六拾七兩壹分銀七匁五分	卯春大津廻米代二入
✂	
一銀八匁五分四厘	新家卯春ふしんふち代現銀二而又左衛門二渡ス
一京都愛宕山を	毎年之通御札・扇参候二付預り置申候、去々丑年御

初尾銀去年渡し候ニ付御請取之由、いとくゐんを書状参候而有

十一月三日

一横垣村長太夫参候ニ付、昨日同村宗右衛門・同人妹いわニ申渡候通、門三郎頼母子講銀之内門三郎借銀相済、其外長太夫・いわニツ割ニ而取可申事、門三郎買置候畑之義ハ、いわニ不残相済可申事、自然いわ縁ニ付夫を持申候ハ、右畑ハ長太夫方へ取返し可申候、畑買証文ハ先当分長太夫方ニ指置候而、双方納得之証文取替シ可申候、ケ様ニ噺申義かてん不参候ハ、以書付御訴訟可申上由申聞候へハ、成ほど相済可申由申ニ付、然者証文取替可申由申渡し候

一右出入噺之段々庄屋二郎兵衛為申聞候へハ、村ニ而之扱卜ハ少違有之様ニ申ニ付、村ニ而之扱相済不申候ニ付双方共ニ此方へ参候付、右々我等存之通申聞納得仕候ニ付、相済申様ニと申渡し候、此義聞違又者非道之扱ニ候ハ、いか様共存寄之通ニ仕候様ニと申聞候

一此度番田村・田中々村御普請奉願ニ付両村何角と申ニ付、両村庄屋長百姓共ニ呼寄候而様子聞届候処、番田を申候ハ、落江縁ニ柳植置落水之支ニ成申候、ケ様ニ柳を立置候而ハ水囲水戸願候而も無詮候と申ニ付、田中々村を申候ハ、当村を願上候普請過半ハ番田之為ニ罷成候処、御願ニ構申間敷事ニ候ハ、番田を願上候西ふけ水湯道之普請ニ支可申由申ニ付、落江柳之義来春見分いたし

為切可申候間、此度番田を願上候普請ニ田中々村を障申間敷候事、田中々村を願上候普請所ニ番田村も同心ニ而願申様ニと申聞候へハ、両村ニ而納得ニ而罷帰り候

十一月四日

一鯖江割合之義指合有之ニ付相延申候間、当八日ニ罷越候様ニと下新庄平左衛門方を被申越候ニ付、宮谷義太夫方へ早々申遣し候一笹岡村金右衛門江戸を罷帰候、詔遣し候上田嶋老段代金式分式朱錢八文之由ニ而嶋持参仕候、代金江戸へ参候節相渡し申候

同五日

一笹岡村市右衛門・宗左衛門・宗右衛門呼寄候而、権瀬二郎左衛門預ケ金之事相尋候得共、預り不申候由申候

同六日

同七日

一田中々村庄屋長百姓参候ニ付、御普請所願状之事委敷申聞候一小黒村与次兵衛参申候ハ、柴山河内砥山権瀬村・市野々村両村交り可申由ニ御座候、其外上之郷之内村々を交り可申と被申候ハ、只今其段可被仰聞由申来り候、最前も右之段々申来候ニ付、前谷・笹岡両村へ相尋候得とも交申者無之候ニ付其段申聞候へハ、然上ハ小黒村支配之与頭野中村左五右衛門方へ書状遣しくれ候様ニと

申二付、後山平介方を左五右衛門方へ連状ニ而書状被遣候様ニと、
平介方へ手かミ遣し申候

同八日

一宮谷村義太夫鯖江大割立合ニ今日を罷越候

同九日

一鯖江大割ニ自分鯖江参候

一金百八両

閏九月廿二日上納御手形

一金五拾七両式分

十月四日上納御手形

一金百四拾三両三分

十一月九日御金持参

都合金三百九両壹分 通帳ニ付請取

一当本途米郷藏納之御書付案紙御廻状、与下村々判形仕候書付共ニ

藤助様へ指上候

一錢貳百文

前谷二郎左衛門方ニ御とまり

一団右衛門様・園右衛門様御普請所御見分ニ御出之節、十月廿

六日夕を同廿七日朝迄

一錢貳百文

舟津村清右衛門

一右御兩人様同廿七日夕を廿八日朝迄

一錢貳百文

十楽村与三右衛門

一右御兩人様廿八日夕を同廿九日朝迄

一右御雑用錢請取候由判形仕指上候、但右之内錢貳百文舟寄善右衛

門方へ御渡し被成候を、善右衛門預り申由断被申聞候

預り申金子之事

合金三拾両也

右之金子儘預り申候処実正ニ御座候、何時ニ而も御用次第返上可
仕候、為其預り手形指上申処仍如件

元禄拾貳年卯十一月九日

前谷村与頭

次郎左衛門

小木友左衛門殿

右之金子方々貸付可申由ニ而預り候、此手形已十二月廿七日ニ書
かへ消申候

十一月十日

一田中々村・番田村御普請所願状式通、団右衛門様へ指上申候

同十一日

同十二日

一此間仕立候割合下帳藤介様へ出し候得ハ、惣与頭不残被召寄、藤
介様・織右衛門様・友左衛門様御立合ニ而段々御吟味ニ而、割方
御直し被成候ニ付書直シ申候

一來辰春御廻米詔申義堅御法度之由、段々被仰聞承届候

一御年貢米当分郷藏無之村百姓自分藏へ入置候共、来春郷藏為仕入
かへ申様ニと被仰付候

一村々百姓商かせき等ニ他国へ参候ハ、庄屋長百姓吟味之上行着

所聞届書付を取遣し申様ニと被仰付候

一 笹岡村市右衛門江戸（租）の罷歸候処、権瀬二郎左衛門方の金子預り不
申由申二付、楚忽ニ詮義不罷成候由段々織右衛門様へ申上候へハ、
御相談之上重而可被仰越由ニ而罷歸り候

同十三日

一 福居用事有之ニ付、我等鯖江の罷出ふくいニとまり申候

同十四日

一 福居の罷歸り候、宮谷義太夫ハ今日宿へ罷歸り候由、鯖江わり相
済申候

同十五日

一 舟寄善右衛門の御検見坂井郡内割之事、舟寄引高引可申由被申越
候ニ付、跡々の坂井郡内わり引不申と返事いたし候、尤留書有

同十六日

一 善右衛門方の何様ニも了簡いたし候様ニと被申越候ニ付、重而参
会之時分相談可仕由返事遣し申候

一 織右衛門様の笹岡村市右衛門事段々御書付被遣、平介方の被指越候
請取申候、則市右衛門ニ参候様ニと申遣し候処、此間煩申由ニ而
不参候

同十七日

一 重義村六兵衛上乘願申候段庄屋中の断ニ候
一 与中庄屋長百姓寄合割方仕候ニ付、当御年貢郷藏納之義、来辰春
御廻米誂申事御法度之証文、無御断他国江参候事御法度証文判形
取申候、并ニ御年貢金米納之事申付候

一 田中々村願上候御普請所之義ニ付、十楽村ニ構無之候哉と吟味仕
証文取候

一 西谷村太郎右衛門・伝兵衛出入、村ニ而嚙相済申由五郎右衛門断
申ニ付、太郎右衛門訴状五郎右衛門ニ相渡し候

同十八日

一 右十楽村証文吉助ニ言伝、团右衛門様へ指上候
一 織右衛門様へ以書状申上候ハ、当御年貢米之分米高の七分通郷藏
相納可申と存候、惣金之内八九拾兩程下免村御指延被下候様ニと
申上候

一 細呂木太郎左衛門、指中村又兵衛書状為持遣し候、其義ハ太郎左
衛門西方寺村下シ米取立可申候哉、出入内ニ候へハいか、可仕候
と申越候ニ付、出入落着ハともかくも下米之義ハ太郎左衛門取立
候様ニと返事いたし候

十一月十九日

同廿日

同廿一日

一銀六匁八分五厘、北村分大津御廻米欠米代

一銀三拾貳匁七分三厘、北村卯暮万盛銀・与頭給共二

一笹岡村市右衛門召連庄屋長百姓参候様二と先日〆申遣候処、市右

衛門氣分悪敷罷有候由二而、宗左衛門・宗右衛門斗参候而宗左衛

門申候ハ、市右衛門何様ニ申候共、権瀬二郎左衛門方〆金子預り

申二ハ紛無之様ニ存候間、此上二郎左衛門方へ何とぞ詫申度候、

市右衛門方〆只今返済可申様無之躰ニ御座候、いか様とも二郎左

衛門方へ口添も仕、詫くれ申様二と宗左衛門申二付申聞候ハ、市

右衛門右之金子預り申と請合申二をゐてハ、二郎左衛門方へ詫言

も可有候得とも、市右衛門請合不申候処、何と二郎左衛門方へ詫

可申様も無之候、市右衛門我等方へ参請合申事成不申候ハ、宗

左衛門内証ニ而然と為請合置、其上宗左衛門我等方へ慥ニ請合被

申事ニ候ハ、いか様共相談可仕候間、市右衛門手前を然とかた

め申様二と右兩人ニ申付候、次ニ市右衛門断なくして他国へ罷出

申間敷との証文、右兩人持参申二付而請取置候、弥市右衛門吟味

被仕、重而様子可被申聞と右兩人へ申渡し候

卯御年貢郷藏納并十一月切請合金之事

一米拾四表

一米三両壹分

一米九拾表

一金拾両

一米百五拾表

一金五両 断有

一米八拾表

一金四両 断有

一米四拾表

一米貳拾七表

一米貳表半

一金壹両貳分

一米五拾四表

一金三両 断有

一米四拾七表

一金四両貳分

一米拾九表

一金貳両

一米百八拾六表

一金六両

一米九拾四表

一金三両三分

一米四拾貳表

一金三両貳分

一金三両

宮谷村

青野木弥次兵衛

同村三平

同村権兵衛

西方寺村

清王村

赤尾村

横垣村

井江葭村

国影村

牛山村

城村

一金貳分

同新家

一米八表

西谷村

一金三両

一下々麻百匁ニ付代米壹升五合
一油壹升ニ付代銀三匁四分四厘
一塩壹石ニ付代銀拾六匁七分九厘

一米百七拾四表

舟津村

一炭壹表ニ付代銀壹匁五分三厘

一金四両壹分

一大豆壹石ニ付代銀四拾三匁三分八厘

一米四拾五表

十楽村

一漆百目 此秤目百四拾三匁但四割三分増

一金六両

但百目ニ付八匁壹分五厘

一米六拾壹表

田中々村

相場ニ壹匁増

一金四両貳分

右者当卯年諸色直段相究御窺可被成由、尤於江戸御吟味之上高直

一米三拾九表

番田村

ニ可成も難斗候得共、先此方ニ而相究候ハ如此之由ニ候

一金拾両

一織右衛門様御取立之段々被仰越候、十九日之日付之御状今日前

一米三拾九表

重義村

谷村伊兵衛持参候、御直段書付ハ重而返し申様ニと被仰越候

一金五両貳分

十一月廿三日

米合千貳百拾壹表半

但四斗六升入

一舟寄善右衛門手本米仕被指越候を、後山持参ニ付一覽いたし、

金合八拾三両壹分

可然米ニ候故其通申候而、善右衛門方へ村次ニ而返し申候、尤右

右之米郷蔵へ早々相納、金子当月中ニ早々持参候様ニと申遣候、
其外割銀・与頭給銀ハ来月五日切ニ相済被申候様ニと申遣候

直段付写遣し申候

一御口米八米ニ而納置候様ニと被仰越候ニ付、村々申触候

同廿二日

覚

同廿四日

一米壹石ニ付代銀五拾九匁八分四厘 米納貳匁高

一金津迄参候

一下々綿百匁ニ付代米貳斗貳升六合四匁

同廿五日

一足痛申ニ付為養生三国へ参、意珊老薬被下候

同廿六日

同廿七日

同廿八日

一銀貳拾七匁鯖江彦六ニ渡、三国ニ而

同廿九日

同晦日

十二月朔日

一金貳両、大工源右衛門上段作料之内三国ニ而渡

同二日

同三日

一今日ハ佐野春庵老之薬被下候

同四日

同五日

覚

一来辰年村々人別宗門改帳例年之通相認、来二月十五日迄之内可被指出候、但組切之家数・人数・牛馬寄立、何軒ハ本百姓、何

軒者水飲、何人男何人女、何疋牛何疋馬と相分ケ、寺数も寄立、何宗何ヶ寺、僧俗男女何程有之段、別紙目録相認可被指出候

一村々当卯之暮名寄・役割、廻米相究次第無相違帳面相認、是又二月十五日切ニ可被指出候、名寄・役割帳共ニ此方へ指出候通式冊宛仕立惣百姓判形取之、相違無之段見届、村々庄屋手前ニ式冊宛指置可申候

右之紙面我等共相改候間、清帳認様重而面談之節可申渡候、来正月陳屋へ罷出候節、両人方へ可被相尋候、此書付見届候段奥書印形いたし可被相返候、以上

卯十二月三日

尾花園右衛門 印

渡辺団右衛門 印

坂井郡与頭三人へ被遣候

右之御廻状後山ハ参候請取候

一織右衛門様ハ当御年貢米郷藏繕遅成候而百姓蔵へ入申ニ付、段々御廻状壺通村々へ被遣候ニ付、自分添書いたし村々へ遣し候、并善右衛門我等方へ御書付被遣候、後山ハ参候ニ付請取候

同六日

一我等足之痛散々悪敷候ニ付、村々罷出候事不罷成候間、御金等無油断取立被申候様ニと村々申遣候へハ、庄屋中ハ被申越候ハ、御金其外御用共少支申義無之候間、次手ながら養生仕候様ニと被申越候ニ付、三国ニ而薬用候

同七日

同八日

同九日

一金四両、此質高式拾石、貸主金津新屋、借主番田村庄屋長百姓、

辰五月切利足壹割式分、奥判いたし候

一金五両式分、此質高三拾石、貸主十楽村庄兵衛、かり主青野木村

庄屋長百姓、辰之六月切壹割半、奥判いたし候

一田中々村左次兵衛持高之内、同村権兵衛去々年丑ノ年十年季ニ預

り、年季之内何時ニ而も本物返シニ而高請させ可申由、権兵衛返

り証文相渡候ニ付、当年高請返し申度と左次兵衛申候得共、高請

返させ申間敷と権兵衛申候由宇右衛門方へ訴申ニ付、返り証文有

之候上ハ下ニ而埒明可申事ニ候間、庄屋長百姓立合埒明候様こと

はいふ遣し申候

一金四両

田中々村才兵衛

内

壹両三分銀九匁九分四厘

割銀二入

式両銀五匁六厘

御年貢金

一金四両銀三匁八分四厘

城村

一金三分銀拾壹匁壹分六厘

同村割銀扣銀

ノ五両 御年貢金二入

一金四両

田中々村宇右衛門

内

壹両壹分銀四匁式分八厘

割銀二入

式両式分拾匁七分式厘

御年貢金

一金五両

赤尾村

内

壹両拾三匁九分五厘

割銀二入

三両三分

御年貢金

壹匁五厘 十二月十六日返ス 半銀二而錢返ス

一金壹両壹分式匁九分三厘

宮谷村

わり銀二入

一金三両壹分

舟津孫右衛門

内

壹両壹分八匁九分壹厘

割銀二入

壹両三分六匁九厘

御年貢金

一金三分

同村清右衛門

わり銀二入

一金式両壹分

十楽村

内

式両拾四匁五分

わり銀二入

五分

半銀二而錢二而返ス

一金四両

重義五右衛門

内

壹両壹分	わり銀二入	十二月十日	
貳両三分	御年貢金二入	一金壹両	清王村権兵衛 御年貢金
一金五両	同村加右衛門	一金貳両貳分貳匁分九厘	横垣村
内		内	
壹両貳分四匁三分八厘	わり銀二而入	貳分貳匁壹分九厘	わり銀二入
三両壹分拾匁六分貳厘	御年貢金二入	貳両	御年貢金
一金四両三分	十楽村	一金七両貳分	井江葭村
一金壹分銀九匁四分	西方寺村	内	
一金壹両	同村	貳両貳分八匁八分七厘	わり銀二入
	御年貢二入	四両三分六匁壹分三厘	御年貢二入
一金拾貳両	番田村	一金四両貳分	
内		内	
貳両三分六匁六分	わり銀二入	壹両貳分四匁八厘	わり銀入
九両八匁四分	御年貢金	三両三分三匁四分貳厘	御年貢二入
合金五拾貳両貳分半切四匁八分三厘		一金四両貳分壹匁六分貳厘	牛山村
内		内	
拾六両半切銀七匁三分九厘	割銀二入	壹両壹匁六分貳厘	わり銀入
三拾六両壹分拾匁八分九厘	御年貢金	三両貳分	御年貢入
壹匁五分五厘	半銀二而錢返ス	一金壹両壹分半切六分八厘	青野木弥次兵衛 わり銀二入
		一金壹両壹分	清王村

内

壹兩拾壹匁九分八厘

清王・青野木わり銀

三匁貳厘

錢二而返ス

一金壹分

新家

内

拾三匁五分三厘

わり銀入

壹匁四分七厘

錢二而返ス

一金壹兩貳匁四分六厘

西谷村

わり銀二入御年貢二入

合金貳拾三兩三分半切六匁九分五厘

一笹岡村庄屋長百姓市右衛門義吟味仕候処、二郎左衛門方金預り

申二紛無之候二付、何とそ佗言仕度候段々被申聞候

十二月十一日

一織右衛門様九日二舟寄迄御越被遊候由、御状二而被仰越候

同十二日

一当御年貢米・同小物成金取立壹紙目録舟寄迄遣し、織右衛門様へ指上候

一我等今日宿へ罷歸り候

一金九兩

平七二かし

内壹兩 吉左衛門

一銀五拾五匁

およし二かし

一銀貳拾六匁

紬之代甚左衛門二渡

一金壹兩

払方之内

一金壹兩

□二払方

同十三日

一織右衛門様舟寄村今日此方へ御越候、舟寄善右衛門方金津通御越可被遊候間、御迎之人足金津迄出し申様二と、昨十二日之返事二被申越候得共、其返状今日此方へ参候二付而、人足申遣し候間無之候二付、前谷村人足三人下関迄遣し、舟寄之人足と此方へ出し候人足と壹所二而関通参候様二と申付遣し候処、前谷村之人足共逢不申帰候二付、又遣し申候へハ御簾尾二而逢申二付而、是へ御こし被成候而御吟味候得共、金津通関通之道之遠近段々申上候

一久野右衛門様後山此方へ御越被遊、御米改二村々へ御越可被遊候哉と御相談被成候二付、米ハ不残村々蔵々へ入置申候、追付来正月十五日過二ハ封を切、百姓共二相渡米拵致せ可申事二候へハ、村々御廻り被遊候二ハ及申間敷御事之様二奉存候と申上候へハ、其通之御相談二而御廻り不被遊候

同十四日

一久野右衛門様御逗留被遊候

同十五日

一久野右衛門様後山へ御帰り被成候

同十六日

一村々庄屋長百姓被召寄、御年貢米・御口米郷藏ニ納置候二付、預り証文判形御取被成候、并御仕置事之内百姓得心不仕段々、御書拔之証文被仰付判形仕候

一村々不足金并包賃銀請取申候

一金壹両壹分銀八匁九分壹厘 舟津孫右衛門不足

内壹分 清右衛門分不足

一銀八匁四分 同人包ちん不足

同十七日

一織右衛門様舟寄村迄御越被成候二付、人足三人笹岡村、三人宮谷村、三人青野木村、式人清王、御駕人足・荷物持・雪ふミ人足共二、十二月十三日夕々十七日之朝迄四泊り分雜用钱□百文請取申候二付手形指上候

一金百七両(印) 卯御年貢金

一金拾両(印) 割人足下新庄平左衛門方へ

一金三両(印) 包賃并彦五郎へ可渡分

合金百貳拾両(印)

右之金子儘ニ預り鯖江へ持参仕候□□御手形を以相返し可申候、以上

源八郎(印)

十二月十八日

一右之金子を持鯖江源八参候

一舟津村孫右衛門・牛山村次兵衛・国影村新右衛門・井江葭村義右衛門・重義村加右衛門、右之者共庄屋かハリの証文五通、織右衛門様へ指上候

一米六表 但四斗六升入

かり主赤尾村

五右衛門庄や

此質高貳拾石 辰十月切三割

長百姓

かし主 (マ、)

一米八石七斗三升五合

此質高七拾石 辰十月切三割

弥三兵衛
太右衛門
庄や
長百姓

かし主

一米拾五表 四斗六升入

左次兵衛

此質高五拾壹石四斗六升貳合

十兵衛
□兵衛
宗□衛門
庄や

辰十月切三わり

長百姓

かし主

一金七両

井江葭村庄屋

此質高五拾石 辰十一月貳割三分

長百姓

かし主金津弥三兵衛

一金八両

右同断

此質山七ヶ所 辰十一月切式割三分

かし主金津庄左衛門

一右五通之証文御裏判奉願候二付、織右衛門様江申上候

一仙玉奉加帳自分書状を相添候而惣与頭中鯖江宿々へ遣し申候

一右五通之証文去暮团右衛門様御裏判被成「」右之証文ニ書かへ候二付、团右衛門様へ返をいたし候

同十九日

一細呂木太郎左衛門西方寺下シ米之儀二付□右衛門殿へ御状被遣候

同廿日

同廿一日

同廿二日

一源八相連ニ而今日鯖江へ罷帰り候

一金百貳拾両 右源八へ相渡^(指カ)□引之事

内

百七両 上納金通帳請取

九兩三分拾貳匁九厘 鯖江割金^{清兵衛}手形

壹両銀四匁四分八厘 包賃仁兵衛手形

壹両貳分拾四匁四分九厘 彦五郎へ渡

ノ百拾九兩三分壹匁七分六厘

残

銀拾三匁貳分六厘 源八預り有

右指引諸手形共請取候

右之銀子指引之覚

一銀四百四拾九匁五分四厘 鯖江大割前谷組

内貳拾壹匁 前谷組ひかへ銀

残銀四百貳拾八匁五分四厘

一銀貳百四匁五分五厘 同内割前谷組

内三拾六匁 前谷組ひかへ銀

残銀百六拾八匁五分五厘

残銀合五百九拾七匁五厘

此金九兩三分銀拾貳匁九厘

一金貳両銀四匁八分八厘 包賃銀仁兵衛手形

此包金四百拾六両壹分

内壹両 十月四日二入

残金壹両銀四匁八分八厘十二月九日二渡

一銀八拾壹匁七分壹厘 竹木・藁縄彦五郎訛代

一銀拾五匁 たはこ代銀残

一銀四拾匁五厘 はたこ代銀書出し有

ノ百三拾六匁七分六厘

内

貳拾七匁 彦六二渡ス

九匁九分貳厘 善右衛門へ渡ル

百四匁七分九厘

十二月廿日二渡ス

ノ百四拾壹匁七分壹厘 彦五郎手形

内四匁九分五厘 過銀有

右之通算用手形不残有

十二月廿三日

一山式ヶ所壺ヶ所上野平山
壺ヶ所上野南平

笹岡村
彦三郎

此代金貳両 辰五月切利足村並

かし主権瀬村二郎左衛門、自分加判

一山壺ヶ所 行返ミのて山

与三右衛門

此代金壹両 辰五月切利足村並

かし主権瀬村二郎左衛門、自分加判

一細呂木村太郎左衛門西方寺村持高下シ米、相済相済候様ニ申付候(符)

様ニと、当十九日二三田村六右衛門殿ノ状参候ニ付、出入之義ハ

重而埒明次第、下シ米之義ハ相済可申之處、当年悪作之處免指引

之事埒明不申候ニ付滞申候、下ニ而和談ニ而相済可申と存候由、

今日返事いたし候

一番田村二郎兵衛娘当卯年十楽村与右衛門方ニ召仕候而、只今出代

リニ候故ひま出し候へハ、夏中相煩かミぬけ申ニ付、余方ニ奉公

不被成候ニ付、来年召仕くれ候様「(ニと与右方)」衛門方へ参居申候、

女之事ニ候へハ何と可仕様も無之候由、与右衛門方ノ断申候

一米四石

清王村
権兵衛

金四両貳分

久兵衛
久右衛門
新兵衛

金ハ六月切壺割、米ハ十月切三わり質物山三ヶ所

かし主新屋惣兵衛、自分加判

一米三石六斗八升京升

国かけ

茂右衛門
次右衛門

此質高貳拾石 辰十月切四わり

かし主米屋太郎左衛門、自分加判

一十楽村与右衛門方ニ、当卯年壺季置ニ番田村二郎兵衛娘を召仕候

而、只今出替リニ候ゆへひまを出し候へハ、当春中煩ニ付かミぬ

け申ニ付、重而奉公成不申候間是非共召仕候様ニと申、右之女参

罷有候而迷惑仕候由ニ而、与右衛門断申ニ付、如何様之子細ニ而

左様ニ申候哉とはいふ遣し候へハ、二郎兵衛・同娘「」弥右

衛門参候而様子承候處、右之通かミぬけ候而奉公不罷成かつへ申

ニ付、せひとも与右衛門方ニ罷有候様ニと二郎兵衛申ニ付、当□(夏)

中相煩かミぬけ段々相尋候へ共不□明候ニ付、左様申たる分ニ

而隙を出し候主人の方へ、無理ニ奉公可成事ニ無之候と申聞候へ

ハ、庄屋長百姓申候ハ、とかく二郎兵衛ニ異見「」与右衛門

方へハ遣し申間敷□□ニ付、いか様□異見申候様ニと申罷歸り候

同廿四日

一城村二郎右衛門方ノ、新家久兵衛と申ものニ高を為書入金子かし
申候處、当冬右之久兵衛江戸へ参候ニ付、右判人之兄弟共ニ申候

得共埒明不申候由、二郎右衛門断申二付而、新家又左衛門方へはいふ遣し候

同廿五日

一 赤尾村長三郎と申者方々大分之借銀・借米有之二付、持高不残年季「一」村人預り申由断二付、重而証文之留持参候様にと申渡し候

同廿六日

一番田村久左衛門高式石六斗持候処、三人の方へ右之高不残書入、其外二村中大分之借金有之二付、いか様之子細二而少高持之百姓ケ様ニ大分之借銀仕、其上庄屋長百姓判二而三ヶ所高書入申義不届之由申聞候へハ、右久左衛門馬喰ニ候故、ケ様ニ金子をかし又馬代金ニ而かし申候、久左衛門只今何と可仕様も無之候二付、馬・家共ニかり方へ可相渡候間、何様共御取被下候様にと申二付、貸主共申候ハ、家・高不残取候而もあたへニも相申事ニ無之候へハ、跡々久左衛門ニ金かし申九人之者共来春金壹両宛出し、久左衛門を下へ馬引ニ遣し、利銀有之ハ割取可申と相談仕、則九人之者共定証文仕罷歸り候

一 同 村二郎兵衛娘又十楽村へ召連参候由二而、与右衛門方断二参候二付、右女二郎兵衛方ニ指置、出入有之ハ書付を以二郎兵衛方(申カ)可申上候、御取次可申候間御了簡を請可□由、番田村へはいふ

遣し候

十二月廿七日

同廿八日

同廿九日

一 高五石八斗

笹岡村高主 清右衛門 庄や

此代金五両式分 辰十月切

長百姓

貸主権瀬村二郎左衛門、自分加判

一 十楽村与三右衛門・与右衛門参断申候ハ、番田村二郎兵衛娘「一」方参罷有候義何共難義仕候間、此上ハ鯖江へ御断申上度由申二付、時分柄鯖江へ参申上候事いか、と申内ニ、番田村久七・弥右衛門・又左衛門参候二付右之段々申聞候へハ、今日ニ成鯖江へケ様之事申上候事ハ成間敷候、先正月之内ハ村ニ而はこくミ置可申と、番田村庄や長百姓□□付其通二而両村共歸り被□候

同晦日

一 西方寺村市兵衛参申候ハ、細呂木「一」同年貢米算用仕候様ニと、最前度々御申渡し候得共、当年大悪作ニ候上免を置申様ニと申候得共、惣下シ米之内ニ而式斗免ニ置可申と申二付、我々方々石置申様にと申□右之埒明不申候二付さん用不罷成候、然処当廿六日三田村六右衛門殿被仰付候由二而、細呂木源右衛門と申者太郎左衛門と同道二而参、太郎左衛門参何角と申候得共、

相手之事ニ候ヘハ何様ニ申も知不申候間、源右衛門西方寺村へ参
様子承届候様ニと被仰付候ニ而参候ニ付、免乞之段々申聞候、又
翌日廿七日ニ源右衛門・太^(郎左衛門)□□□□参候而源右衛門申候ハ、免五
斗置可申候間、さん^(用仕候)□□□□様ニと申ニ付五斗ニ而何様仕候□□成間
敷「」免之事ハ指置候□□さん用仕候様ニと申候ニ付、元之免
究不申候而ハさん用不罷成候と申、于今相済不申候と申来り候